# 北支



現地編輯

THE NORTH CHINA

昭和十四年六月十五日印刷納本　昭和十四年七月一日發行（每月一回一日發行）第二號

7



、五花蛋（五色の卵）下、龍睛（龍の眼玉）などと形や色から巧妙に支那式の名がついてゐる

# 金魚

金魚賣の呼聲をきいたら夏が來たのである。いやでも懷古趣味に引きずり込むやうな北京の街にこれは又恰好の景物に違ひないが、靜かで艶な金魚をたのしむ北京人の心には蒼臭い逸樂の沓が生えてゐるのかも知れぬ。金魚をみるにつけて思ふのは宮中の美女三千と云ふ昔の夢それを方寸の器に盛つて眺める市井の文人墨客は又帝王我に於て何かあらんとうそぶいたらう。

中央公園や北海に數知れず竝ぶ金魚の大盥や大鉢をのぞいてみると、日本での所謂出目金を好むグロ趣味が目立つのであるが、本來はやはり全體に均整したのを上品とするらしい。



蛤蟆頭（蛙の頭）

## VARIOUS SPECIES OF CHINESE GOLDFISHES



帽子魚（文字通り帽子金魚）



上、反腮（腮が反對向）下、絨球（毛氈球）

種類もなかなか多く、それぞれ支那一流の名前をつけてゐる。
天壇の北、天橋市場の東方に金魚池と云ふ養魚場がある。さしづめ北京金魚の水源地とでも云ふべきところ、池を分つて畦を築いた風情は日本の水田に似てゐる。畦に立てばあまり清澄でない水面に金魚や鯉が顔を出す。四邊は汚い乍ら空濶で夏の夜の涼を入れるにはよからう。

ここらの住人養魚を業となすもの現在七軒、このうち知樂魚莊と云ふ家が大々的に金魚を飼つてゐる。

鯉、鮒は冬期に入つて街の飯莊に賣るのだが値も張る。尙魚虫（餌）や小金魚を街頭に商うて生計をつなぐ者約五十餘名。

この池は金時代の所掘で當時瑤池殿を築いて華麗であつたらしい。金の章宗嘗てここに臨幸す、附近又園亭多し、その後殿廢れ園荒れて寥落今日に至る、殊に國都南遷後民困財竭愈々振はず、とあるが一陽來復の北京の生色はこゝにもやがて蘇るであらう。



向つて右、望天、左、紅頭、中央、席頭



花龍睛（龍模樣付の眼）



BREEDING-POND IN PEKING




# 金魚

その一

1・養魚場の看板。金魚のほかに鯉や鮒も養殖してゐる。

2・金魚池の全景。愛玩用にしか使はれない金魚を養ふためこんなに大規模にやつてゐる。さすがに悠久な都、北京である。

3・池で大きくした金魚を種類別にして育てるための甕と水槽。甕は百以上も竝んでゐる。

4・養殖の鯉。主として支那料理店に供給される。

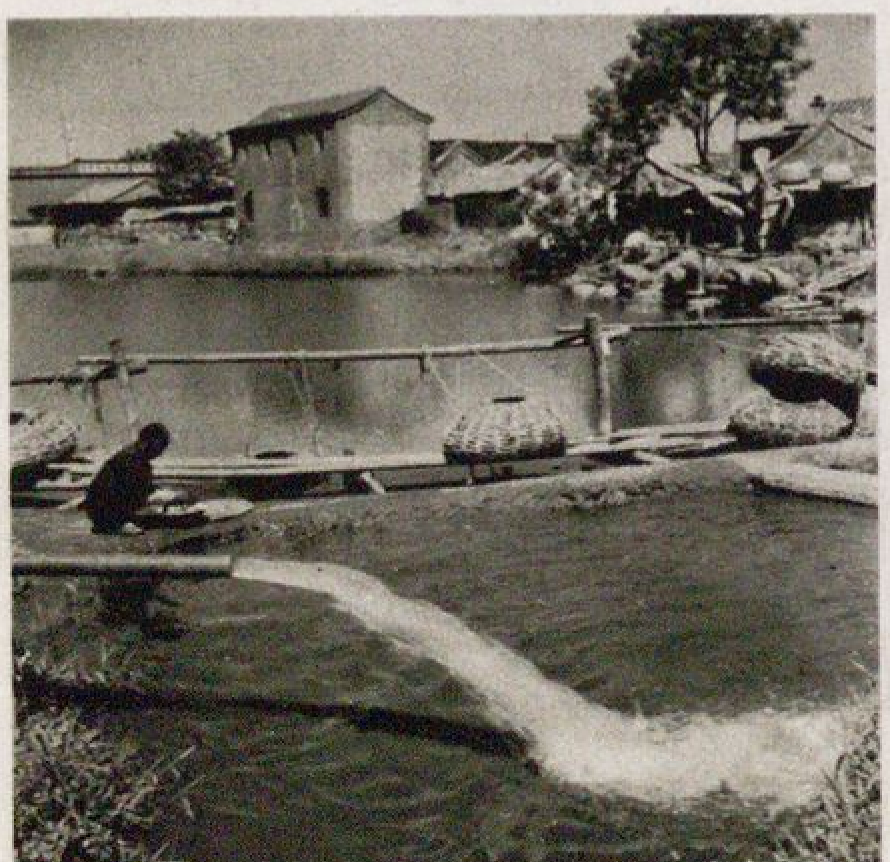
5・金魚の子。こんなのが一尾百圓以上にもなる。

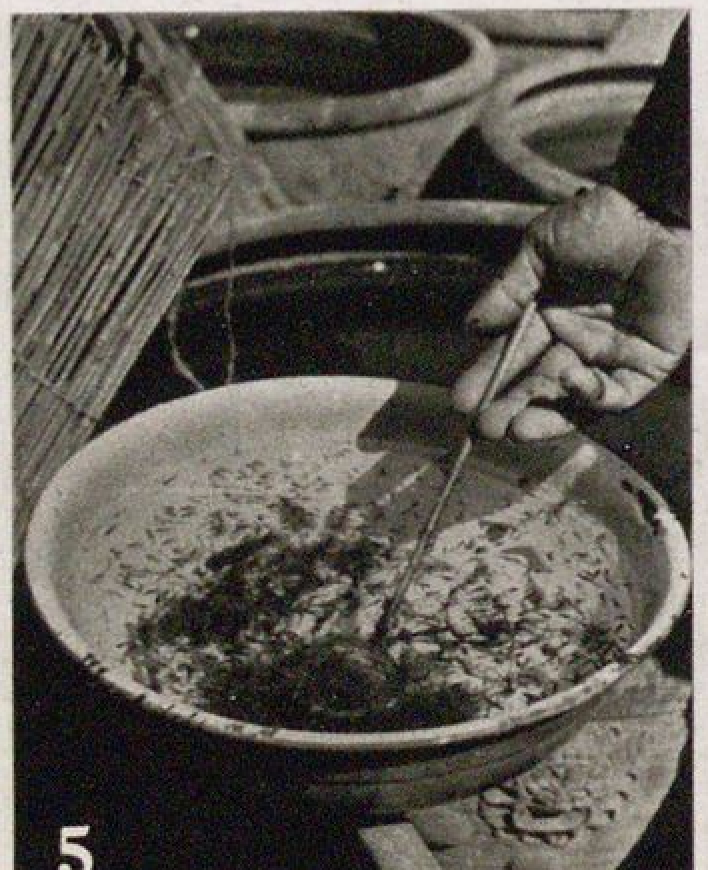
6・排水、金魚池はちやうど日本の水田のやうに畦があり、池から池に水をやつたり、排水したりするのはモダンなモーター仕掛であるのも愉快な對照。





2





5



4

# 伸び行く鐵路

## EXTENDING RAILWAY IN OUR NORTH CHINA



治安の維持も鐵路から……曠野に日章旗を飜す裝甲列車……



戰爭は建設である。〃民生安固〃の聖戰の眞意義はここにもある



新線の昧爽

北支・蒙疆の鐵道のうち事變の打擊を最もひどく受けたのは北京・漢口間の京漢線であつたが、新鄕開封間の新線建設によつて隴海線との連絡成り、六月一日からは夜間運轉を行ふまでになつた。また同蒲線は、大同・原平間の新線敷設につゞいて最近南端に近い蒲州まで開通したので、山西省を完全に縱貫するにいたつた。これで鐵道幹線の平常化は、餘すところ隴海線だけである。鐵橋や驛舍、機關庫など無慚に破壞され、レールは取拔けられて丸裸の路盤が數キロも殘骸を曝してゐた事變直後に較べれば、この短時日に驚くべき復舊ぶりであり、津浦線黃河鐵橋の架設工事など、世界鐵道技術のレコードだといはれてゐる。

鐵道は產業の先驅、社會文化の動脈だといはれるが、特に北支、蒙疆のやうな防共特殊地帶では、同時に國家の城砦であり軍備たるの役割を持つのである。新中華、蒙疆の建設と長期戰の二つが步調を揃へて行はれねばならぬ現在、大陸交通の整備は急務中の急務であらう。



CHINESE COOLIES EMIGRATING

# 動く資材　苦力　その一

「滿洲の苦力が一年間に郷里に持歸る現金は、驚く勿れ二千萬圓、これでは幾ら日本から滿洲に金を注ぎ込んでも、みんな苦力の懷から支那に流れ出てしまふ……」といふ悲鳴に似た話題が新聞を賑はしたのは滿洲事變直後であつた。その頃北支から滿洲に移動する苦力は年百萬を超えるといはれた。大陸の寒風漸く烈しくなり、奥地の穀倉に充滿してゐた滿洲の特產物が、やがてどつと洪水のやうに出廻るころ、北支から大連や營口に入港する船はどの船も眞黑くデツキに苦力の大群を乘せて來る。四等船客の、いはゆるデツキ・パツセンジヤーである。せんべい卷にした蒲團包を肩に、著ぶくれた群像が凍つた道を蟻のやうに移動していく光景を車窓からよく見かけたものである。

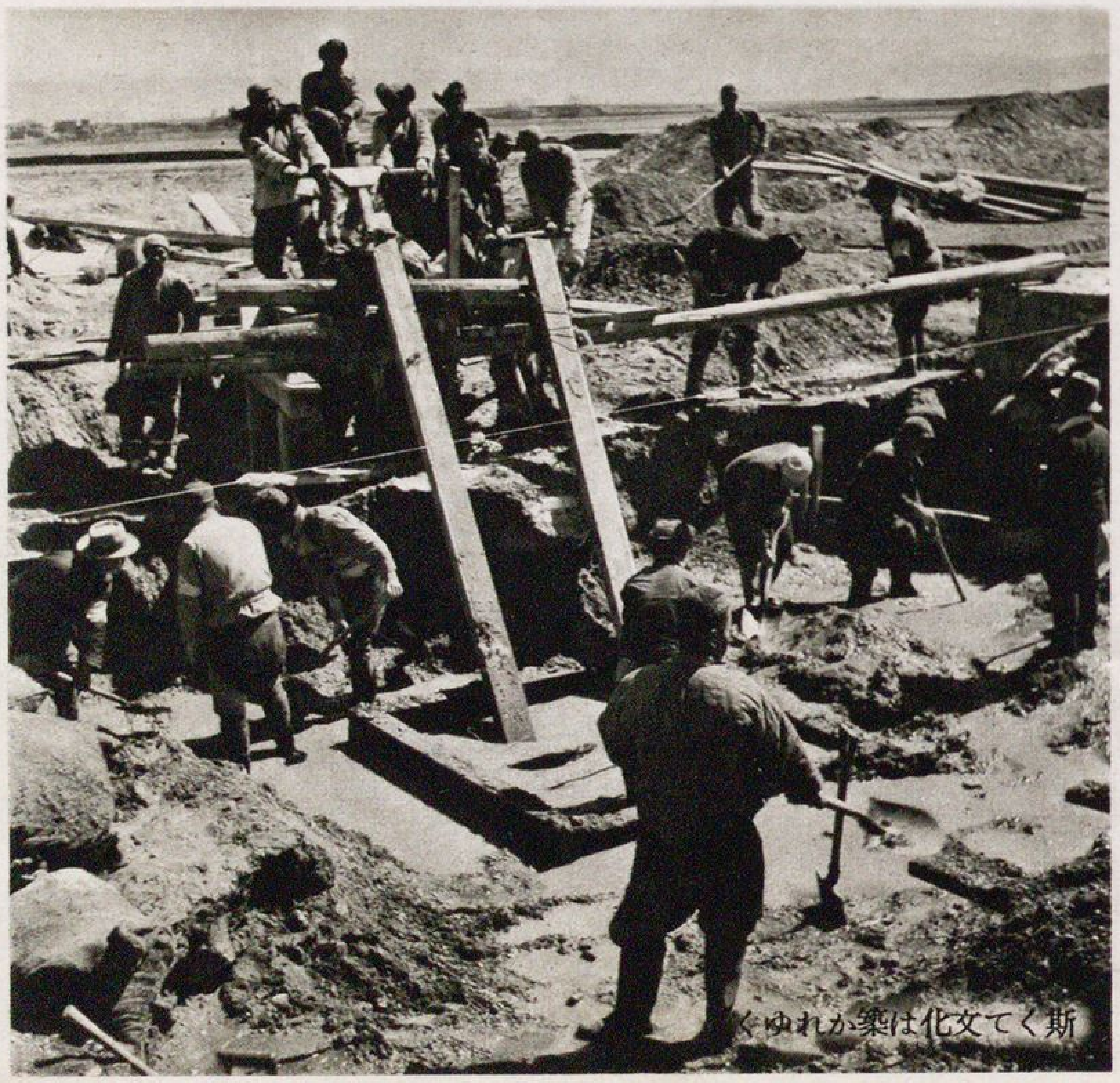
支那住民中八割の農民のうち中農以上は僅かに五分程度で、あとは殆ど食ふや食はずの貧農でありその間に中間層といふものはない。下層農民の生活については「大地」の王龍一家に巧みに描かれてゐるが現實はそれ以上かも知れない。沃野千里といはるゝ大地支那も、既に開墾し盡されてゐて、餘つた耕地は殆ど殘つてゐない。機上から農地を視察した或る人は山も野も耕し盡されてゐる光景を見て歎息を洩したといふ。支那の農村は勞働力を持て餘した人間で一杯である、と。試みに耕地に對する人口の割合を見ると、人間一人に對して僅々三畝の耕地しか與へられて居らず、河北や山東はもつと酷く、文字通り寸土の上に食はねばならぬ人間が折重つてゐる有樣。また入滿苦力の統制會社たる大東公司の調べによれば、渡滿希望者の六割三分は五畝乃至二十畝の *



家財道具一切



〃苦力〃は建設の生ける資源だ



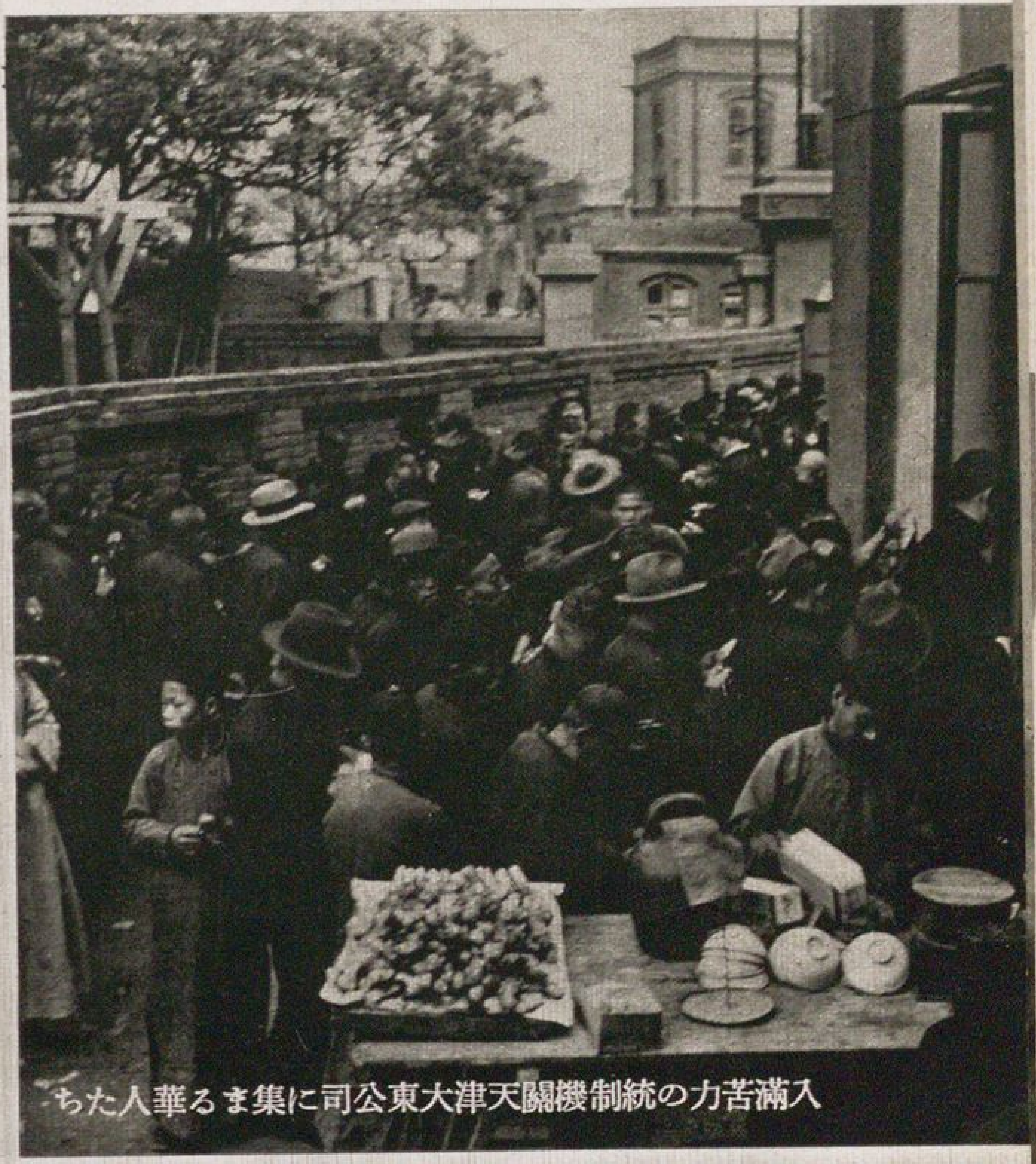
斯くて文化は築かれゆく



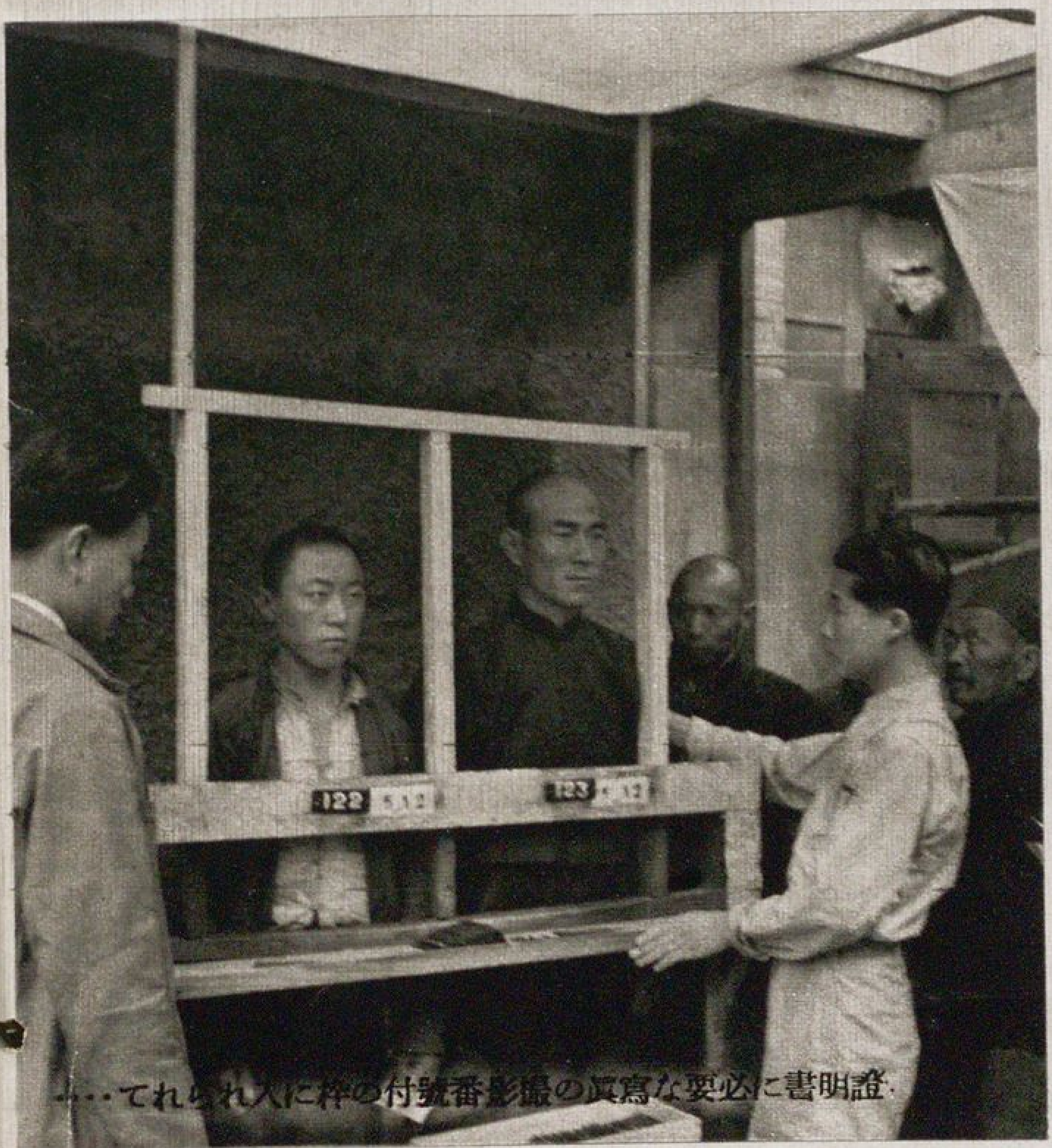
を肩にして満洲へ出稼の首途



身體檢査、アンペラ掛けの小屋へ‥‥



入滿苦力の統制機關天津大東公司に集まる華人たち



證明書に必要な寫眞撮影番號付の枠に入れられて‥‥

動く資材

# 苦力

その二

*土地を持つてゐるが一割六分は一片の土地も持つてゐない。北支では、一家が最底の生活を營むためには、二十畝は缺かされぬといふから、苦力の八割までは正に飢餓線以下の極貧者であることが窺へる。山東の田舎では、随處で柳の葉が悉くむしり取られてゐる光景を見るといふ。一粒の豆、一握の粟を食ひ盡した農民は、木の葉草の根に胃を滿さゞるを得ないのだ。しかも打ちつゞく天災と軍閥政客の誅求に遭つては、絶ちがたい恩愛の郷土をも棄てゝ流亡せざるを得ない。

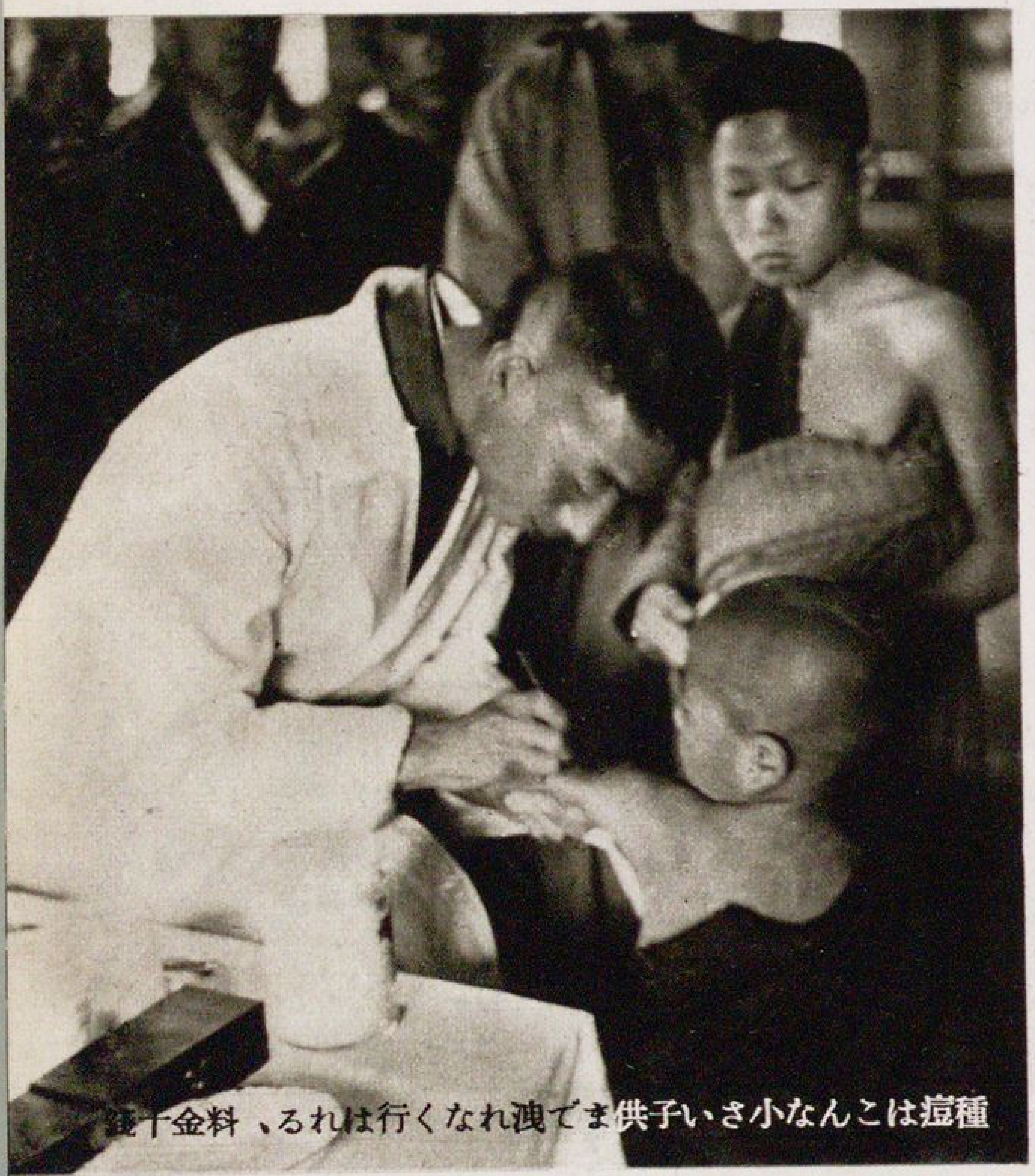
農村のかやうな狀態が、過剩勞働力の無盡の溫床となるのである。北支一圓からはみ出される之等の蒼氓は年三百萬といはれるが、事實はもつと多いだらう。彼等の一部は現地の工場勞働者や日雇苦力に、或は土匪または支那兵になり滿洲に渡る者はこの數年制限を受けてゐるので、年四、五十萬に減つてゐる。北支、蒙疆の諸建設や滿洲の産業開發には、安價なそして豐富な勞働力を得ろか否かは他の資材の獲得にもまして眞剣な*



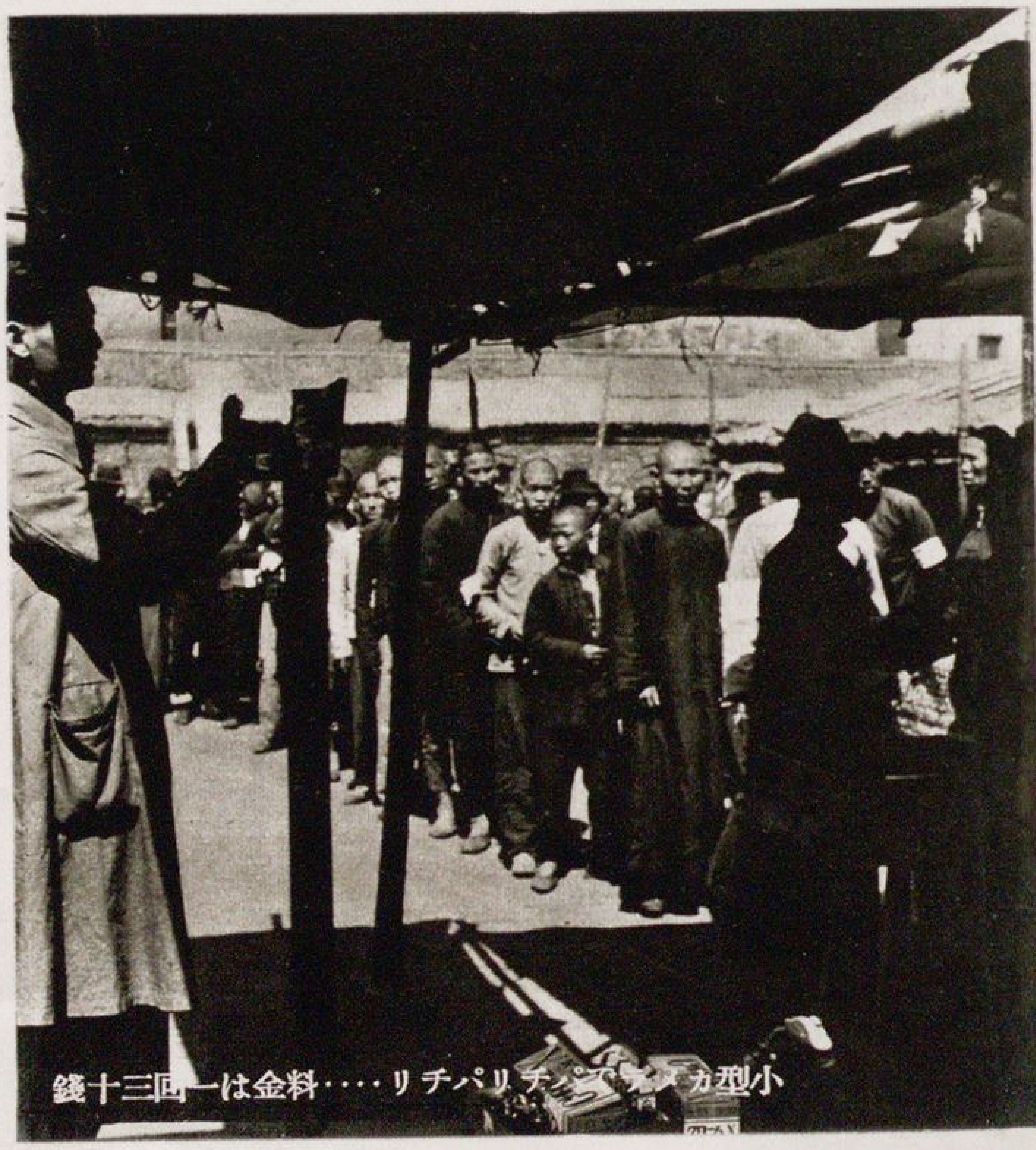
行先地及び身分の調査



身體檢查終って點呼



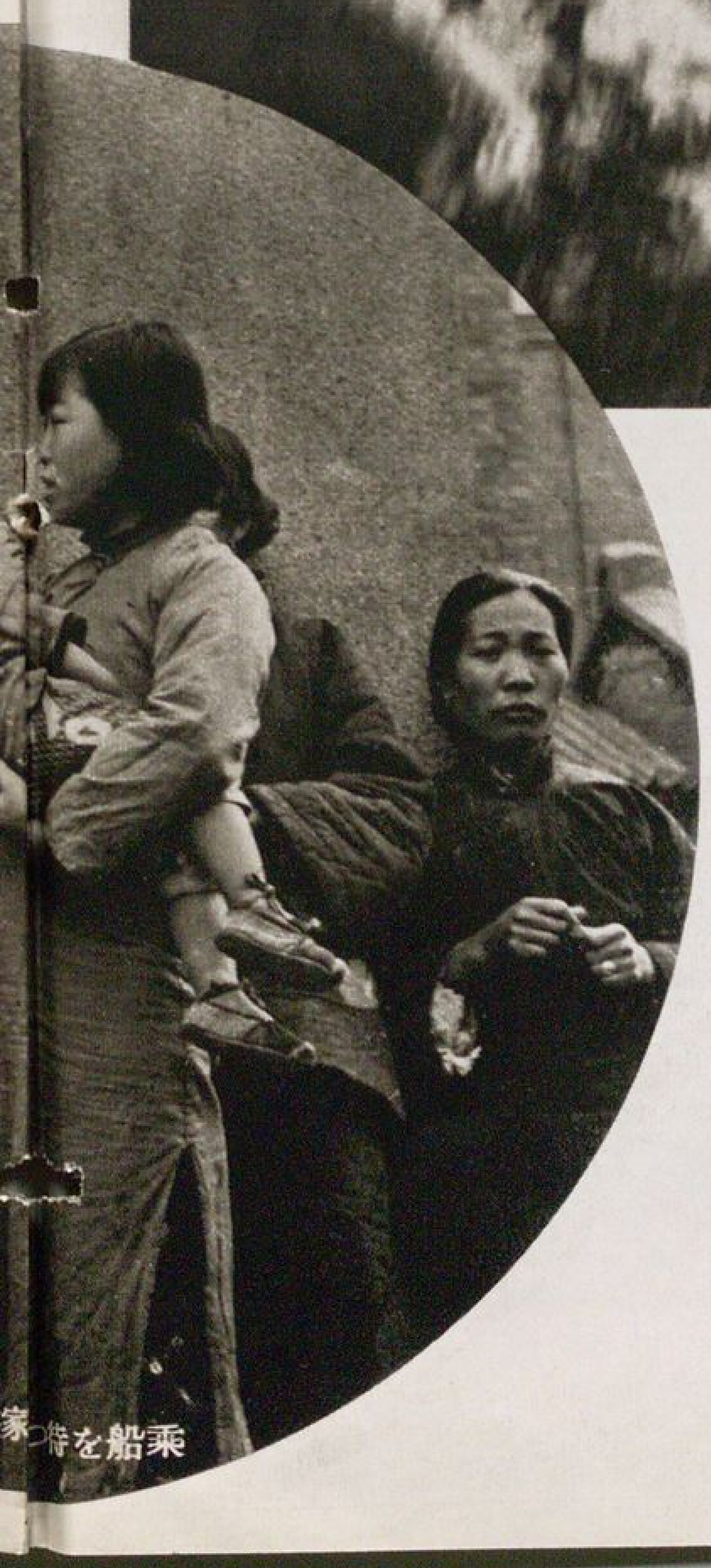
種痘はこんな小さい子供まで洩れなく行はれる、料金十錢



小型カメラでパチリパチリ・・・・料金は一回三十錢



満洲へ……



乗船を待つ家

＊問題であらう。最近、勞力不足に惱んでゐる滿洲に向けて、天津から臨時列車を仕立てゝどしどし苦力を運んでゐるし、また戰時下の內地企業家のうちには、支那苦力に著目してゐる向もある由である。苦力では高級だといふ大連埠頭二萬の荷役苦力でも、年に延べれば日に五十錢足らず、これで食つて著て、たまには遊びの一つもやれば殘るところは知れたもの。
「お前が金を送らんので犬に嚙まれたが治療もできん、わたしや每日泣いてるよ、今度送らにやケモノになるぞ、ケモノが嫌なら金送れ……」
鄕里に殘した老母や女房からの手紙は大抵こんなものである。苦力宿舍を覗いてみると、筋骨逞しい若者の中に肉衰へ頭禿げた老人が意外に多いことに目を惹かゝる。粗食と過勞を繰返す彼等は、四十前後で早くも盛りを過ぎ、ひと稼ぎの夢も見果てずやがて異境の土となる運命の彼等である。

# 動く資材 苦力

その三



甲板が船室代り、いはゆるデツキ・パツセンジヤーだ




目的地への三等車に乗込む‥‥



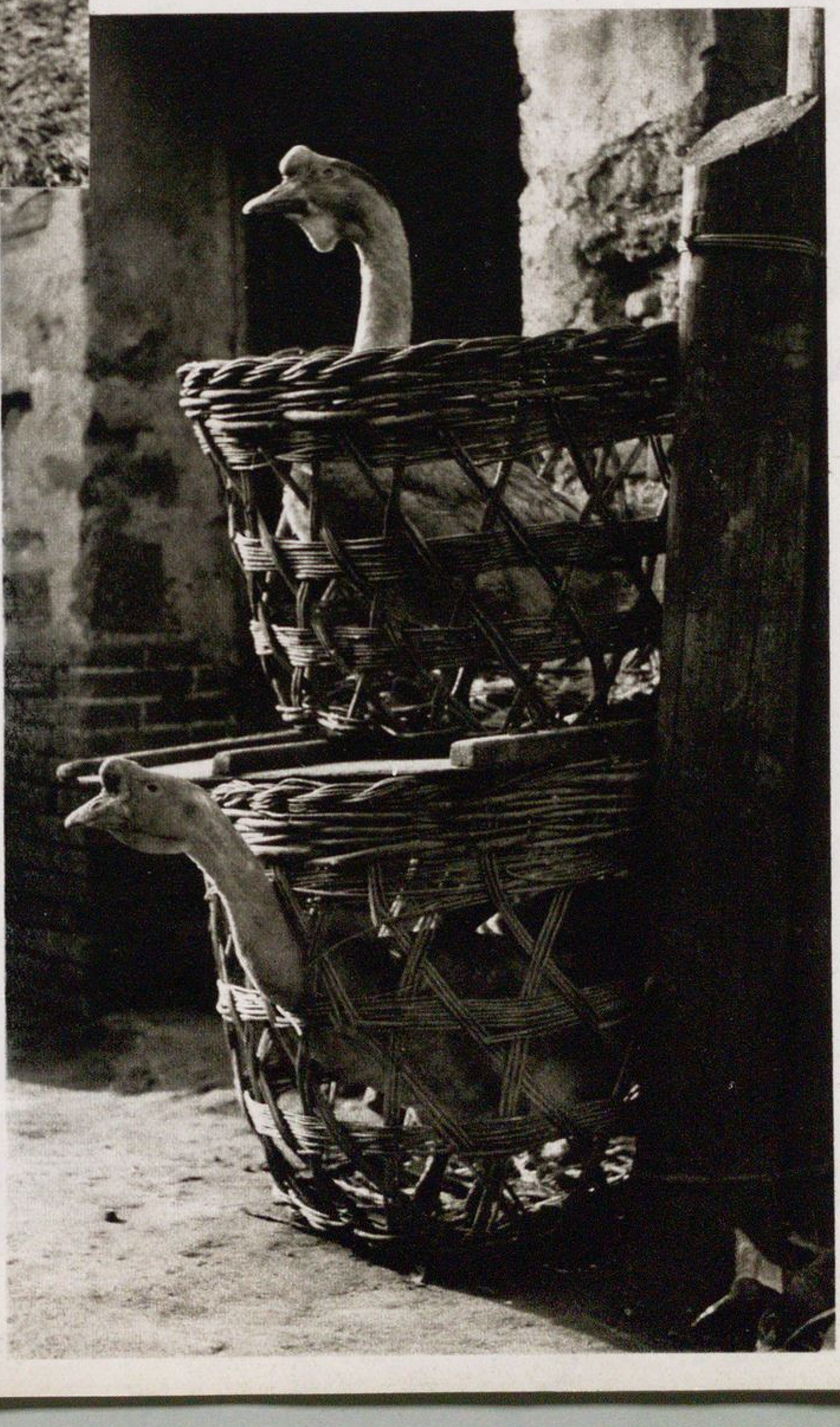
族たち

# けだもの登場

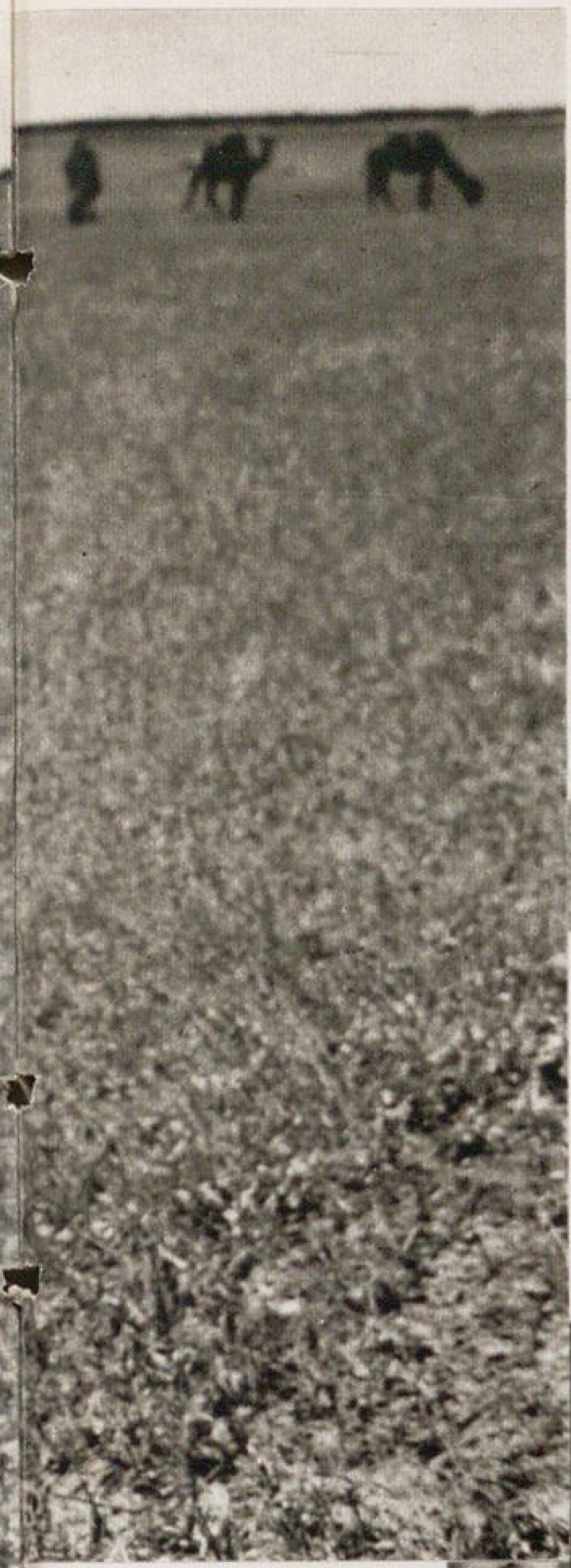
ANIMAL'S KINGDOM



「逃げろ〳〵」
「ヒヤーつめてェぞ」
主人が小便してるまに遁走、まんなかは深いのを御存知ない（張家口にて）



かごォの鳥でエも智慧ある鳥はァこりや
かごォやぶりて　あひにイくうるう‥‥
こりやこりや
赤く彩色されて結婚式に使はれる鵝鳥（北京の街にて）



あたし恥しいわ、撮すの毛が生えて
からにして頂きたいんだけど‥‥
妙齢のミス蒙古（張北の草原にて）

さつきハイキングの人間共が
「ろばでも笑ふだらう」







「おい大丈夫かい？」
「うむ、警戒を要するナ、この前も青鼻かんだ紙を食はせやがつたからナ」
（青島の公園にて）

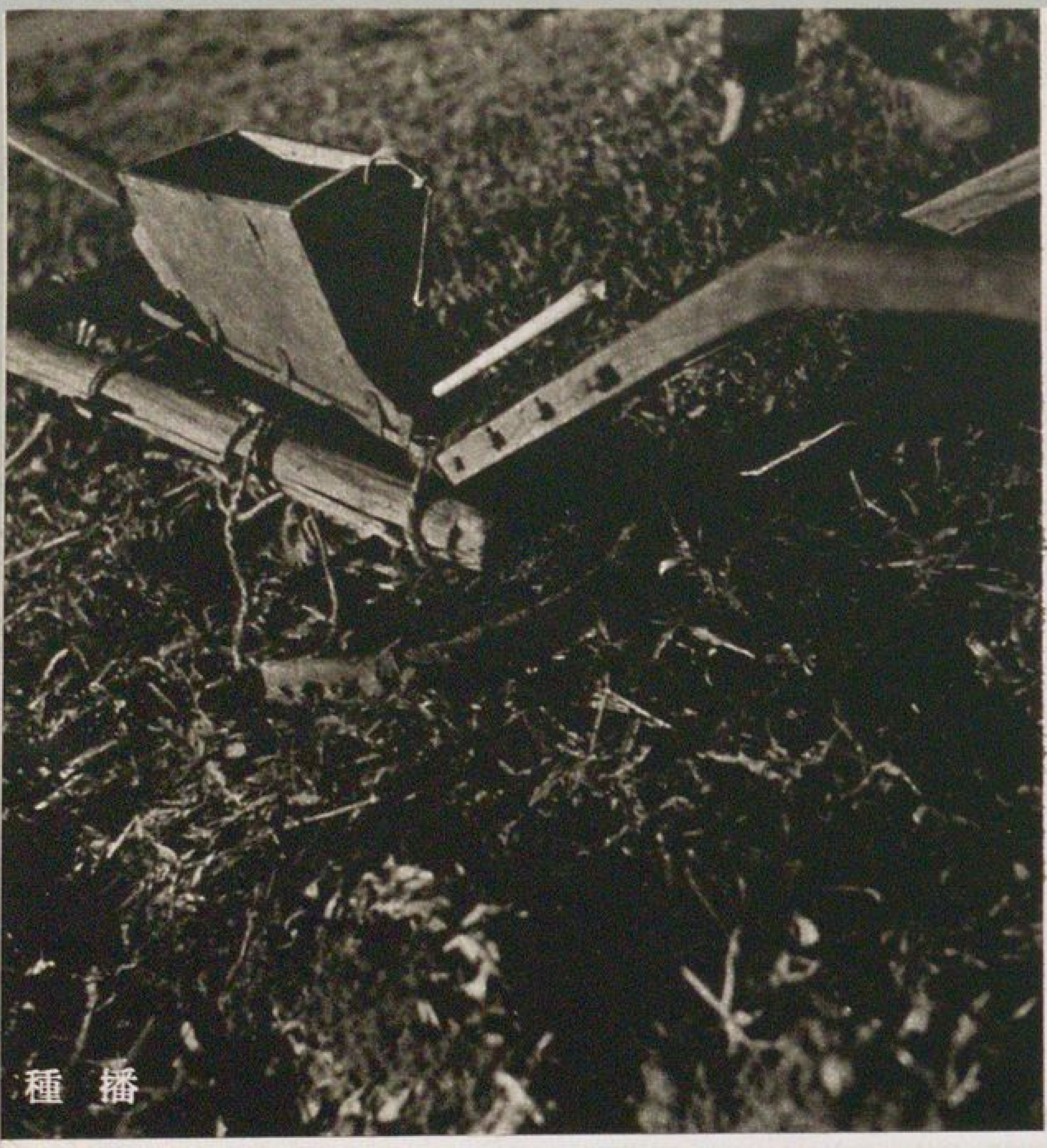
「いや、笑はんよ」と押問答して通つたのを思出すと、をかしくつてをかしくつて。

哄笑する驢馬（實はアクビをしかけてゐる。北京西郊にて）

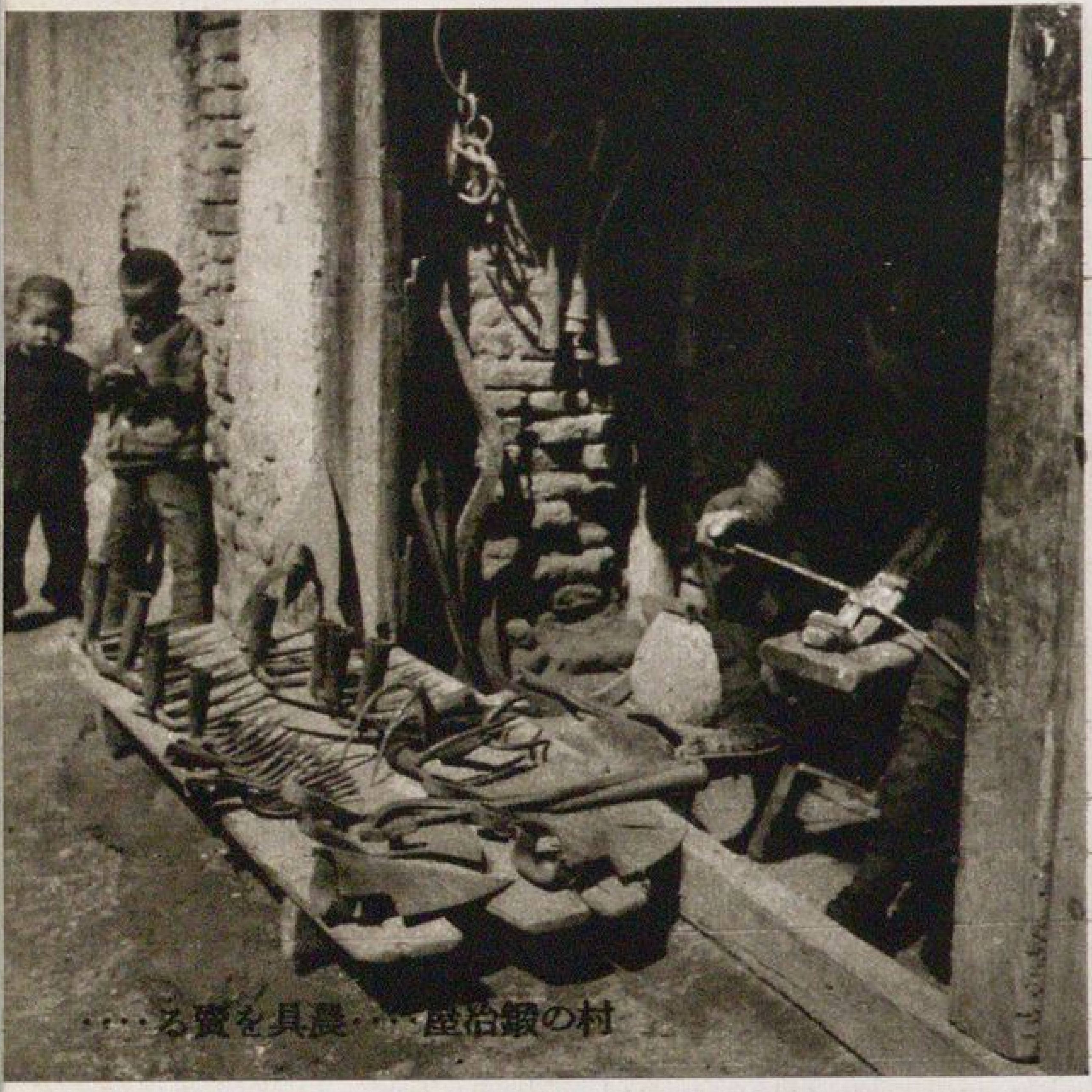


# 北支の農村

A RURAL LIFE IN NORTH CHINA



播種



村の鍛冶屋……農具を賣る……



農具

「今は山中、今は濱」子供達が歌ふ鐵道唱歌のそれの様に平原の少ない土地に育つた大和民族には、茫々として涯しない支那の平原を想像することさへ不可能であらう。而もそれが丹念に耕された耕地なのだ。

支那の農業は今から四千年程前、神農氏によつて初めて黄河の流域に芽生えた。以來漢民族の祖先達は農を國の本となし、強い意志と逞しい勞働力とを以て無慈悲な自然と鬪ひながら黄河を樞軸とし河南、山西、山東とその耕地を擴大して行つた。

四千年の永い支那農業史を繙けば支那の胴腹を蛇の様にのたうつ大黄河の氾濫、又は草根を掘り、石を嚙つて餓を凌いだ旱魃、恐しい蝗の害、無道な帝王、軍閥の搾取等々の苦鬪の連續のみである。農民は之等に對してたゞ默々ともぐらの様に土にまみれて從順な屈服を續けたが、一面、永久の反抗を潜在させた。この間に強靱な、ちつとやそつとでゆがめられない漢民族の生命が養はれ、その魂の根は大地の中に奥深く喰ひ込んだのである。

武力を以て中原に覇を唱へた蒙古族や滿洲族でさへこの根強い生活力を持つ漢民族の前に屈從してゐる。清の康熙帝は清朝祖先の發祥地——滿洲を永久に純滿洲族の本領土として守るために滿洲封禁令を出し、彼等の農による侵入を防いだがこのほとばしる様な漢民族の推進力は條文や法令で阻止し得るものではなかつた。

支那の人口は現在五億と稱され、その八〇%が農民である。これらの農民は明けても暮れても、土の生活に終始する。

泥の塊を積み上げて壁をつくり、屋根は高粱をならべその上に泥が塗つてある。その周圍には土饅頭の祖先の墳墓が散在する。彼等はこの祖先の土地にへばりついて、そこから僅かな土の所産で自らの命を養ふ。土への活動力がなくなつたとき、母胎に還る様に默々として土饅頭の中に入るのである。



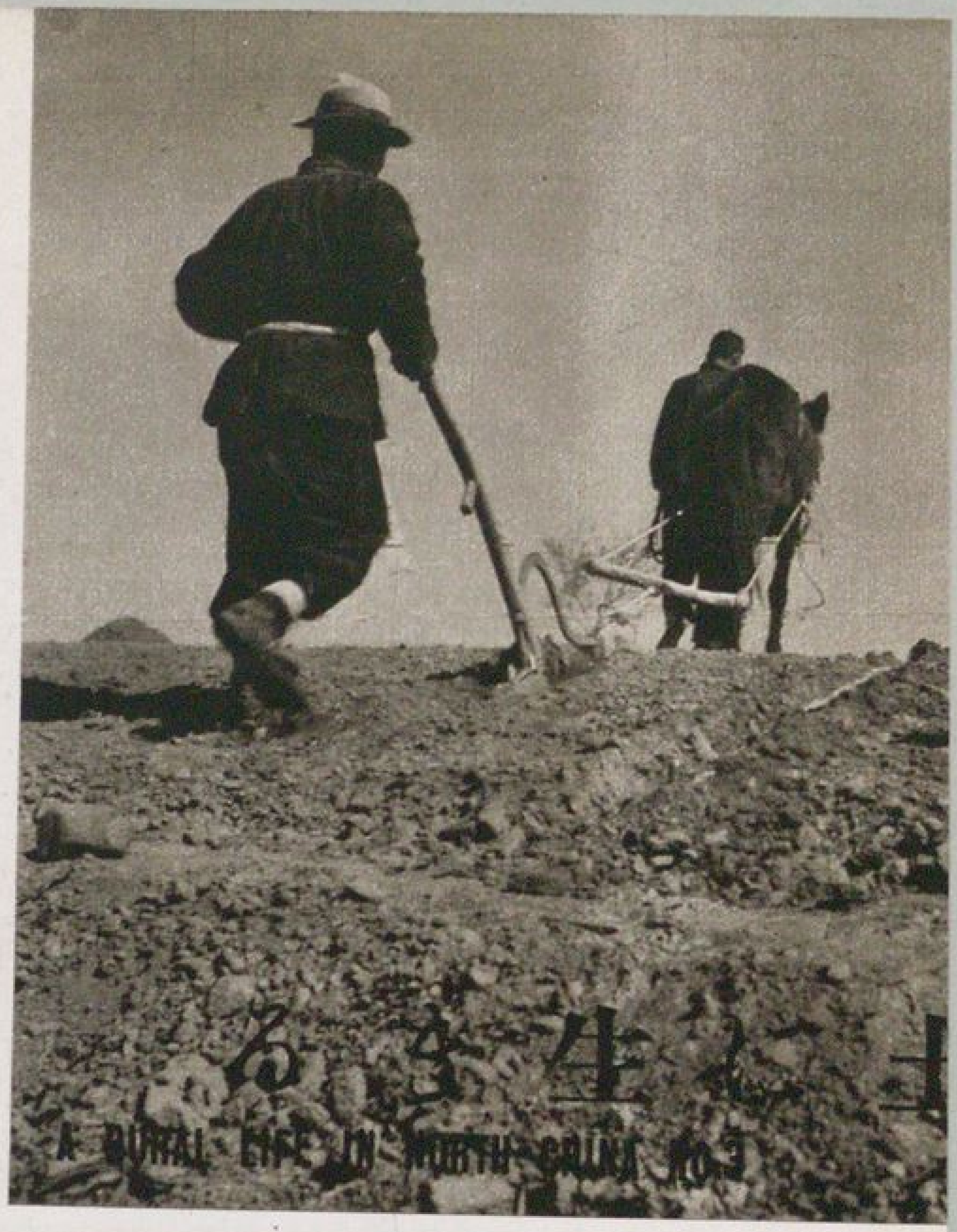
朝早く馬の手入れ



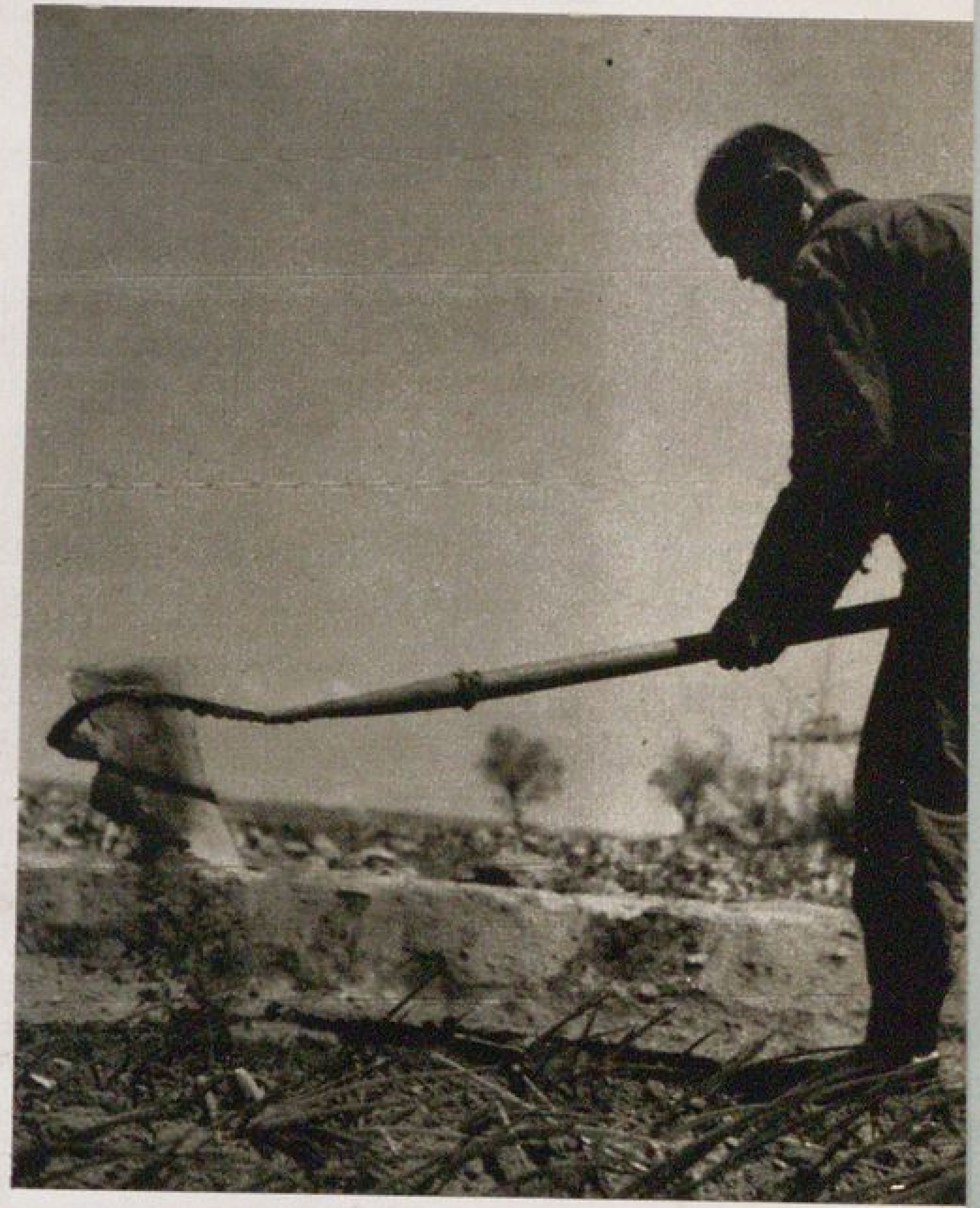
土の團欒……京包線南口附近の農家……

A RURAL LIFE IN NORTH CHINA NO.2






起



除草



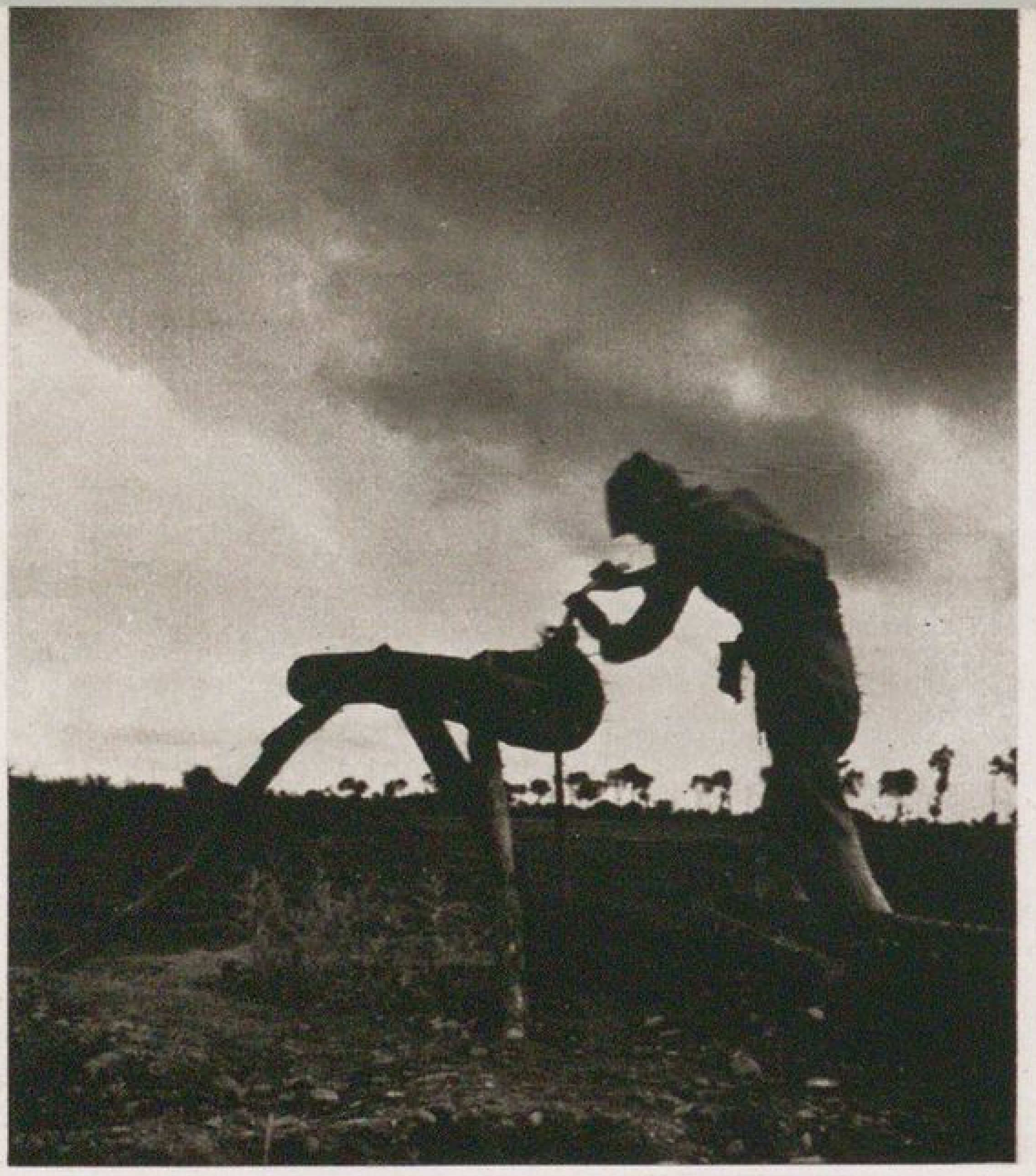


鎮　壓・・・・道具は拉子・・・・



鎮　壓・・・・道具は破子・・・・





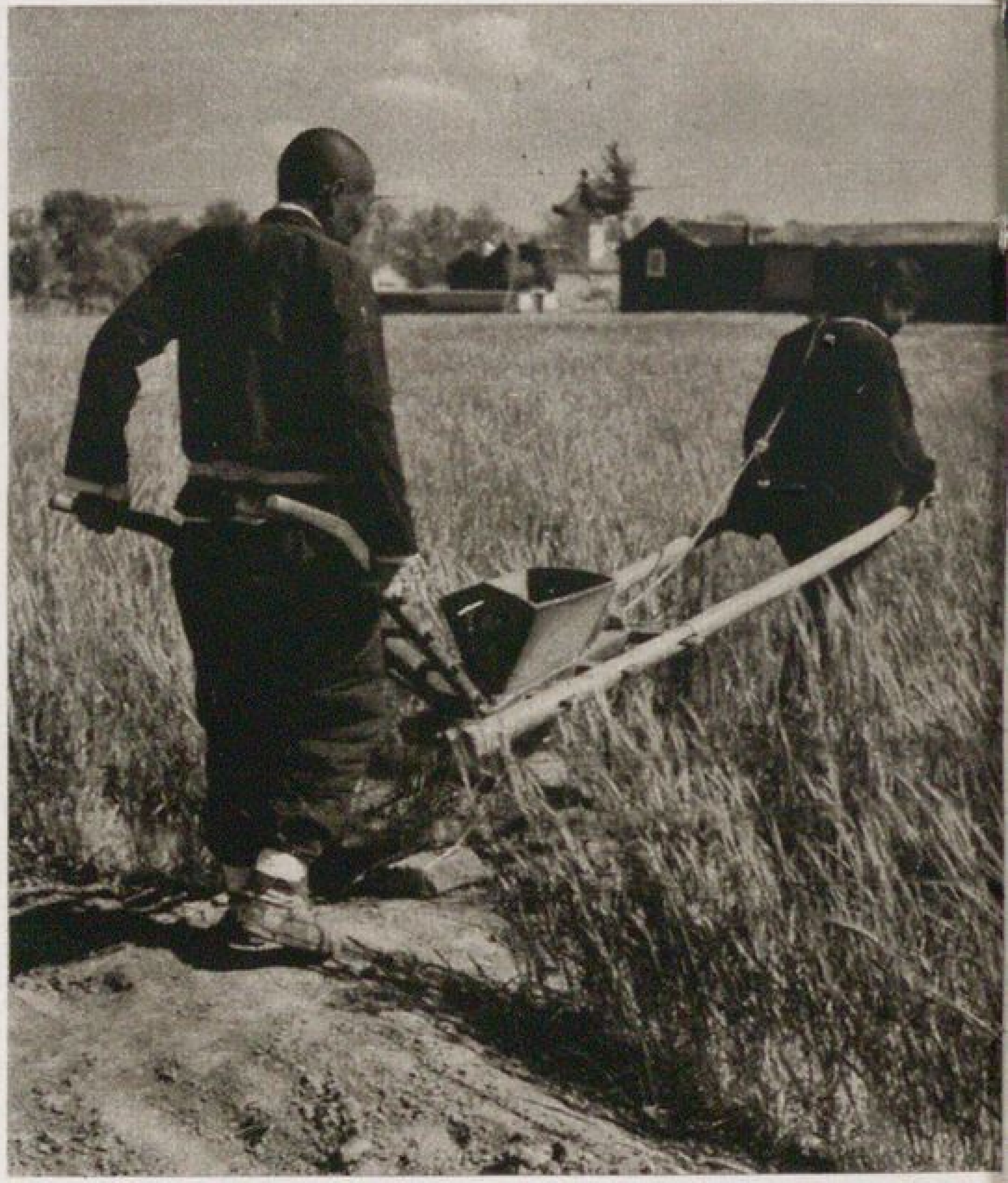
轆轤井からの灌水



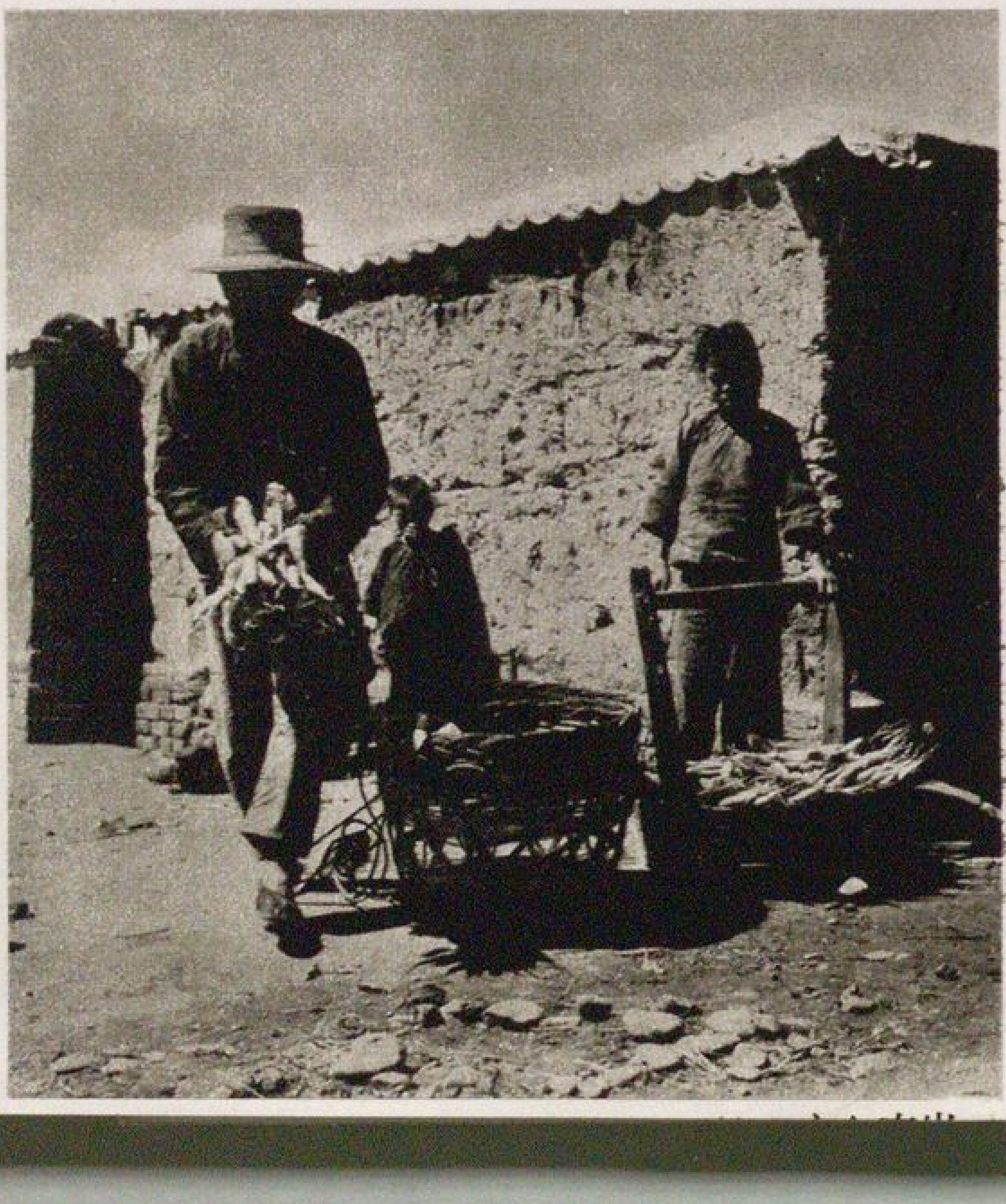
間作の播種



みのり



間作の播種・・・・道具は耬(ロウ)・・・・





間作の播種

# 青空を越えて

支那近代女性







**MODERN CHINESE YOUNG GIRLS**
**STRIVING FOR PHYSICAL CULTURE**



國立北京女子師範に昨年四月體育科が設けられた。生徒數三十一名。開科以來直ちに各競技に參加し數多くの優勝を得、現在全市排球大會の優勝候補である。一日松竹胡同の校舍を訪れた。木馬、跳箱、肋木のある圓周二百米の運動場に白シャツに黑パンツの女生徒の投げる槍は青空を截つて跳躍する逞しい脚はアカシアの綠に映えてゐた。槍投をしてゐる陳玉新女史を捉まへて話をきくと昂然として「數學科は終日《微分積分》に厭倒されて笑はず、國文科は文章書きに靑くなつてゐる。全校の沈滯を破るのはわたしら跳々する體育科のみである」と語つた。





# 支那芝居〃法門寺〃



控へ居る巧姣、俳優は尚小雲

「法門寺」は「拾玉鐲」の續きになつてゐるが各々切離しても上演される世話物である。明の時代、陝西郿塢縣城々外の孫家莊と云ふところに孫と云ふ寡婦が居て、玉姣と呼ぶ美しい娘があつた。世襲指揮使の傳鵬は郊外に遊んで玉姣に出遇ひ、その美を喜び、贈るに玉鐲（寶石の腕輪）を以てした。玉姣も亦傳の風流を憎からず思うて兩々消閑のところを運惡く隣の劉婆（男女間とりもち婆）に見つかつた。玉姣は仕方なしに劉婆の云ふまゝに綉鞋（飾靴）を傳に贈る。劉婆の子彪は之を知つて良からぬ心を起し官に訴へる。

――（これより法門寺）――

時は正德帝の治世、出頭第一の宦官劉瑾は、母后を奉じて法門寺に參詣の折柄一人の娘が直訴して來た。これは傳鵬の內緣の妻宋巧姣である。夫傳鵬は孫玉姣に戲れたと誣ひられ



RAMA “FA-MEN-SSU”

〃法門寺〃のクライマックス訊問の場



威儀を正した劉瑾、俳優は侯喜瑞

て、郿塢縣の知縣趙廉は事實をよく調べもせず傳に入牢をおほせつけた。巧姣は夫に限つてそんなことはないと思つて、色々調べた結果、案の如く夫の仇劉公道等のたくらみだと判つたのでさてこそ直訴に及んだのである。

（以下第三場——尤もこんな明確な幕切はないのだが——の對面訊問の場を譯すれば）

巧姣——（唱）この身大雄寶殿に跪き侍る

校尉（お附の下役）あゝゝゝ（大聲上げる）

劉瑾——賈桂よ（傍附の小監）外は何事ぢや鶏が鳴くか、猫が吠えるか

賈桂——校尉共、外は何事、鶏か猫か

校尉——おそれ入ります

劉瑾——我等都城にあつては威儀も要るが、今は都を離れて要もない、校尉共下り居らせよ

賈桂——校尉共よく聞け、我等城を出たからには威儀は要らぬ、下り居れい。そちなる女、遠慮なく申し述べろ。

巧姣——太后様（劉瑾の母方）お聞き下されませ（と前言して歌で事の仔細を申し立て何分御審議願ひますと伏拜む）

太后——伜よ、この件審問の上、娘御の申分をきいてやるがよい、身は歸るぞよ

（太后と二宮女退場）

そこで劉瑾は郿塢知縣の趙廉を呼びにやる、校尉が趙廉を召連れて登場する。

劉瑾——控へたるは郿塢縣の知縣殿でござるか

趙廉——恐れ乍ら趙廉

劉瑾——面を上げぬか

趙廉——罪の身、面目ござりませぬ

劉瑾——アイヤ、如何なる罪かある、面を上げい、見て進ぜる

趙廉——御免下されい（頭を上げる）

劉瑾——フフム、また大膽な知縣かな、孫家莊の双傷沙汰、兇器も證據もないものを身勝手の投獄……ハツハツハツハツ……兄貴よ、皇上が見えぬかの、ようく聞けい、皇上はまだしも、わしの顔が見えるかの、帽子をとりなされ

賈桂——くりかへし云ふがの、お前さんは御大の顔が見れまい、まだしも拙者の顔が見えるかの

劉瑾——何ぢや、この木偶の棒

趙廉——（唱）傳鵬はもと大それた殺人犯

劉瑾——默れ、殺人も其方が刀をやつたんぢやろ、お前はそれを見たんぢやろ

趙廉——上様（唱）小職彼が口述一々質せしに法に照すは無用のこと、自ら承認致せし故、獄屋に投じてござりまする

劉瑾——巧姣どうぢや？

巧姣——（唱）知縣様の御言葉、眞僞の程は分らねど、まだ劉婆も居りまする

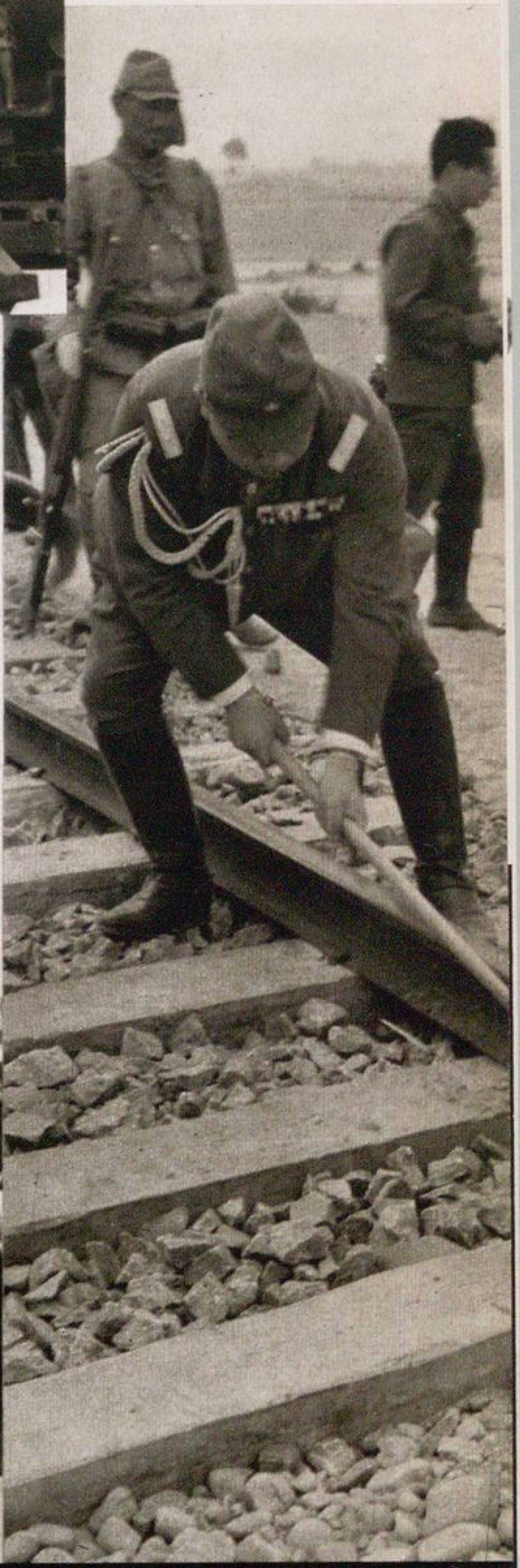
斯くて、劉瑾は趙廉に命じて、三日間内に眞犯人を探し出せと命令する。面目を失した趙廉は歸つてよく取調べると眞犯人が判つたので、傳鵬を出獄させ、玉姣をその第二夫人に納めて事落着する。この芝居の立役は劉瑾で賈桂と共に半ば道化の役。勿論役者次第では巧姣、趙廉の役が主になる。寫眞は四月中旬北京西長安街の新々戲院の法門寺。役者は趙廉に老生の馬連良、巧姣に女形の尙小雲、劉瑾に侯喜瑞、何れも一流の名優である。



ON A CHINESE

# 大きな歴史・小さな歴史





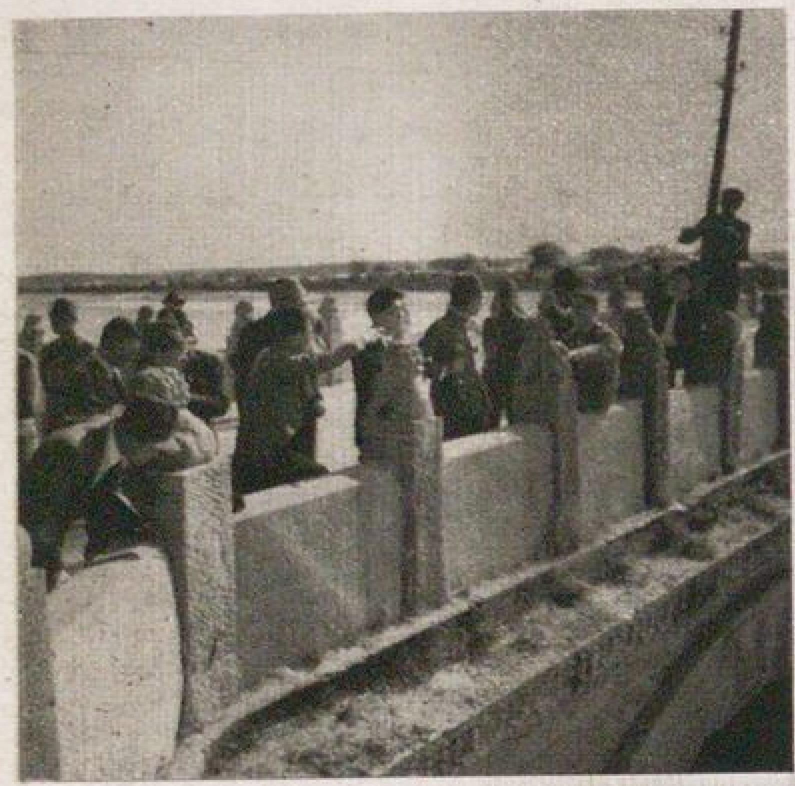
▽京漢線新鄕と隴海線開封とを結ぶ新設鐵道新開線（一〇二・九粁）は我が岡上、靑村兩部隊勇士の手により河南民衆待望裡に見事完成、端午の節句にめでたい五月五日中間の太平鎭で盛大な開通式が擧行された。この日新鄕發開封行列車と開封發新鄕行の兩處女列車は午前十時四十分相前後して太平鎭に到着、岡上、靑村兩部隊長の間には感激の握手が交はされ、諸勇士の萬歲の聲は中原の野に轟きわたつた。







▽北京の日華スポーツ關係選手を網羅する日華親善對抗競技大會が五月二十一日午後一時半から先農壇市立公共體育場で開催された。トラックにフィールドに興亞の力を盛りあげ日華兩選手は親善の火花を散らして力鬪した。



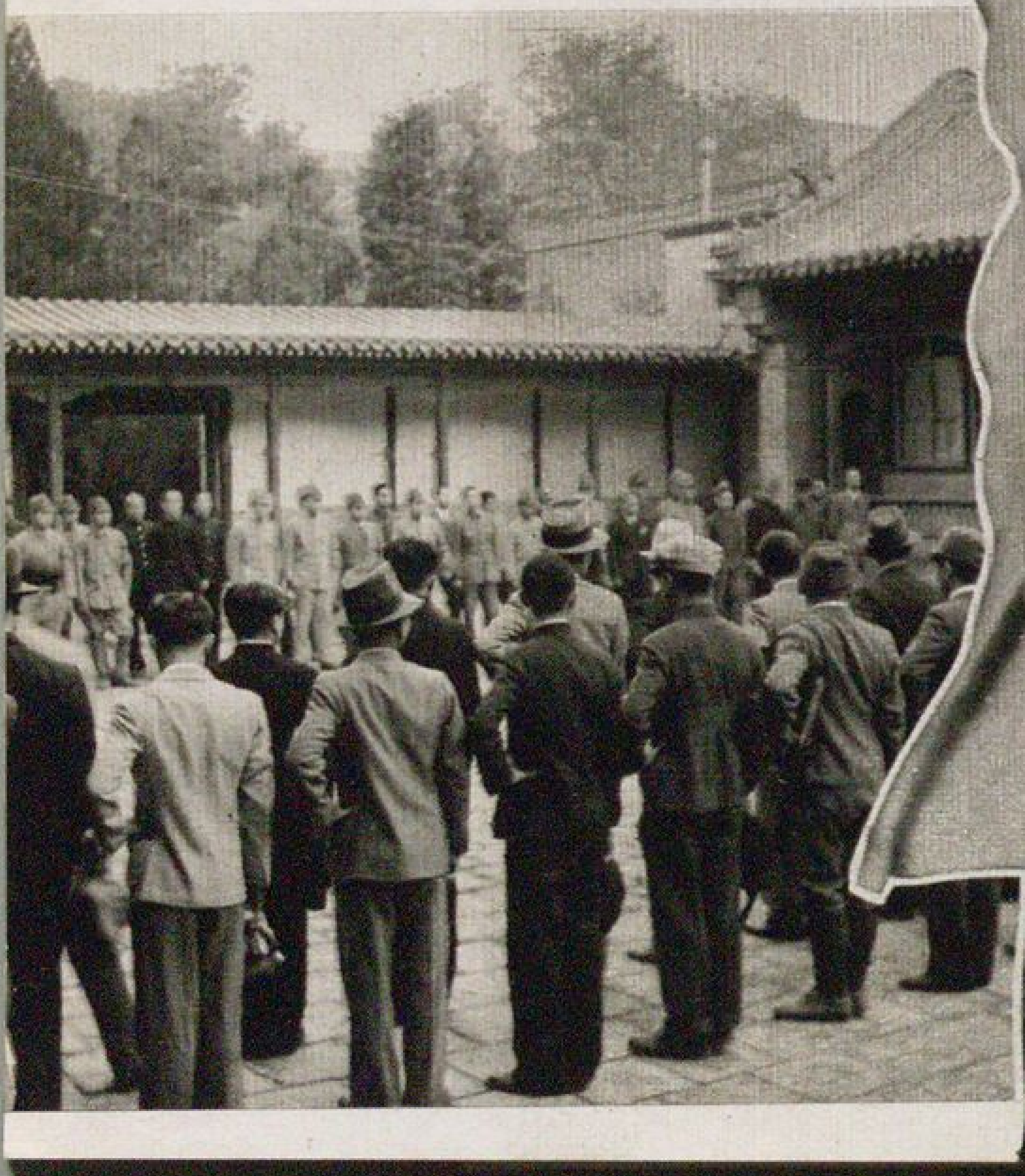
▽日本人住むところ到る處に神社ありで、聖戰下の新戰場にも神靈の大陸奉遷が所々に行はれてゐるが、張家口でも蒙疆地區在留邦人の護神として神社を建立することゝなり、各機關邦人によつて聖域の勤勞奉仕などが行はれた





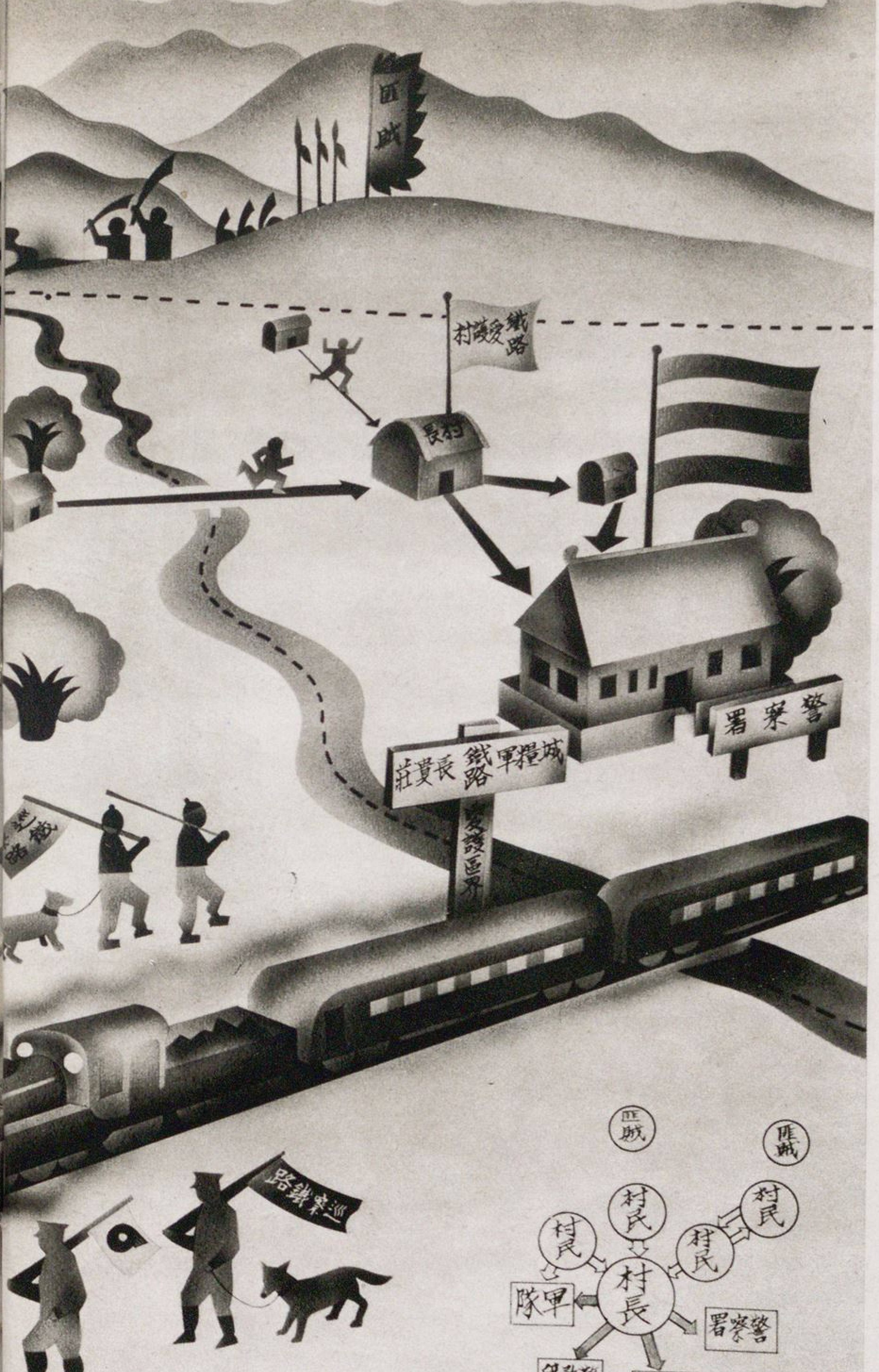
▽〝ようこそ、盟邦の友！〟ドイツのペン部隊リハルド・フエルスター團長以下十三名の新聞記者團は五月十九日午後七時三十分着列車で新綠かをる北京を訪れ、日華兩國官民の大歡迎裡に悠久一千年の古都を視察觀賞した。

▽興亞青年の意氣と力を示して北京總領事館管下の徵兵檢査は五月十六日から一週間北京居留民團で行はれた。受付壯丁者數約八百名。日本人大陸進出のあとを如實に物語つてゐる。





# 北支蒙疆の鐵道沿線は斯くて




鐵路愛護村匪賊情報連絡圖

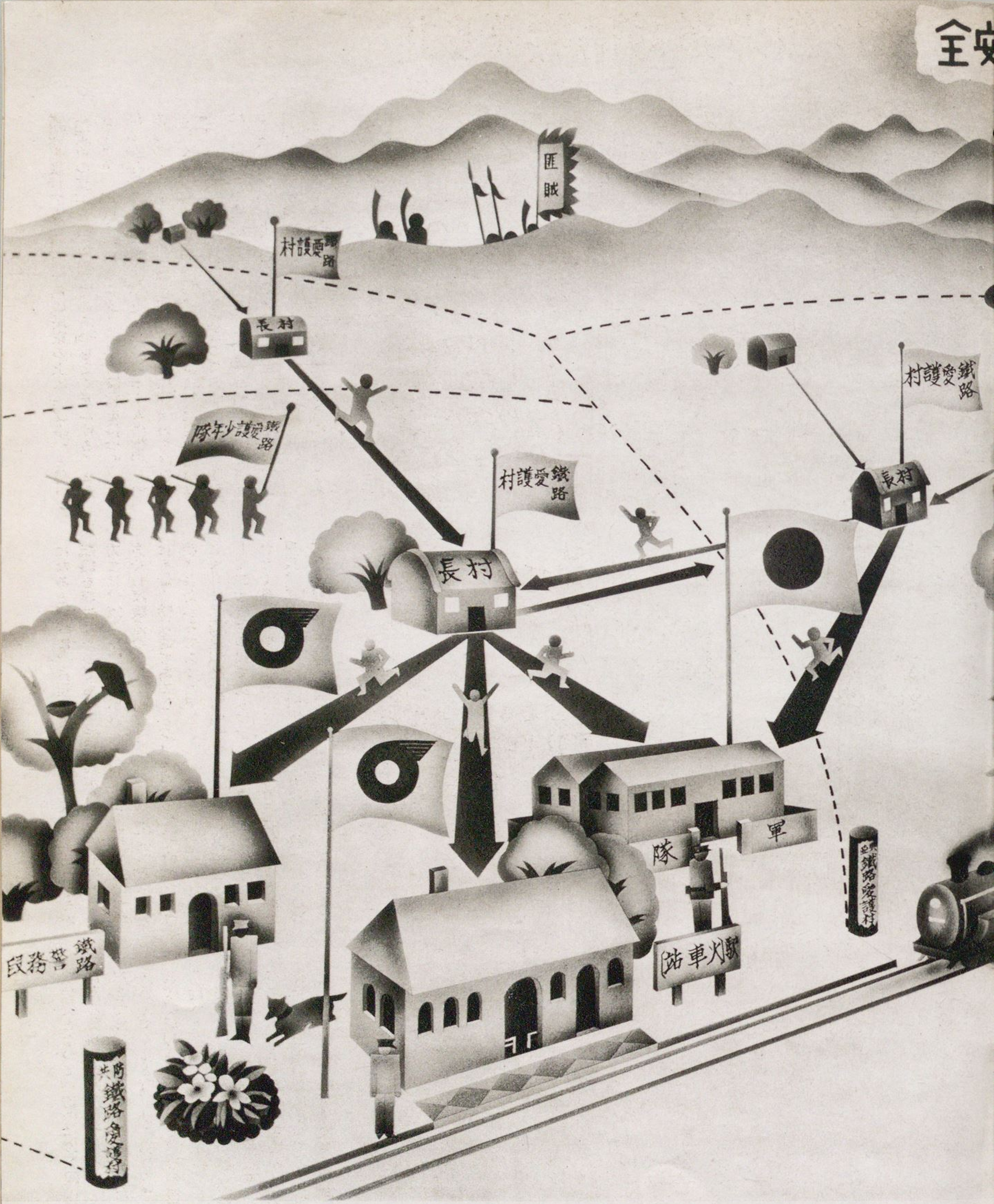
滿洲を旅行すると、泥一色の民家の上に「愛路」と書いた黄色の旗が蒼空に飜つてゐるのをよく見かける。またカーキ色の制服に紫のネクタイ、手に隊杖を持つた、内地の少年團そつくりの少年たちが驛のホームに整列してゐるのに出あふ。時には列車の窓口に鈴蘭やわらびを賣りにくる少年もある。この沿道の黄旗は鐵道愛護團の旗で、少年たちは鐵道愛護少年隊なのである。滿洲では全線一萬キロの鐵道と、ほゞそれに近い自動車路線に限なくこの組織があり、全國民衆の半分近くが包含されてゐて樂土の春を讃へてゐるのである。

北支や蒙疆でも事變直後、滿鐵が鐵道の運營に當ることになると同時に、占領地の鐵道沿線に、片ツ端からこの組織を植付けたのである。敗殘兵が多く、土地廣大な地方では、軍隊や鐵道側がいくら頑張つてみても民衆が味方せねば鐵道の萬全は期し得ないこと、沿線の産業開發にも最も効果的であることが、滿洲の實績で遺憾なく證明されたからであつた。

こちらでは鐵道線路の兩側十キロ、つまり線路を中心にして二十キロの幅で塗りつぶした一帶の町や部落は、洩れなく鐵道愛護村に指定されてゐる。愛護村長の下に十戸長、二十戸長がゐて細胞組織を構成し、數ケ村が集つて聯合村となり聯合村長は最寄りの驛長さんで、村長の輔佐役となつて一切の指導訓練に當るのは交通會社の社員たる警務段の人たちである。

田舍では村中がみんな顔見知りだから見慣れぬ他國者が入込んでくると直ぐ目に觸れる。こ奴あやしいぞ、とあれば即刻村長に報告する、その村長は隣村へ、さらに警務段へとリレー式に急報する。この村と警務段との連絡は何事ない日でも毎日一回は必ず行はれるので、附近の情況は少くとも警務段には細大洩らさず判る、といふ仕組である。また各村で線路の受持區間が定つてゐて、村民は二、三人が組になつて毎日數回線路を巡察する、犬釘は大丈夫か、爆藥が埋つてゐないか……と丹念に見廻るのだ。この水も洩らさぬ網の目にひツかゝつた大小の獲物は、いちいち數へきれぬほどで、表彰された愛護村は十八ケ村、一千三百餘名に上つてゐるし、幾多の美談佳話を生んでゐる。こんな際、いつも活潑に立働くのは愛路少年隊で、見てゐるといぢらしいほど勇み立ち一所懸命にやつてゐる。

鐵道側では、村民に無償で優良種子を配布したり、巡回施療班による治療施藥、さては慰安演藝隊を乘せた愛路廉賣列車を運轉したり、或は農業實驗區を設けて農事の改良指導を、問事處を置いて村民




の日常萬般の相談相手になるなど、さまざまの便益を與へるのだ。

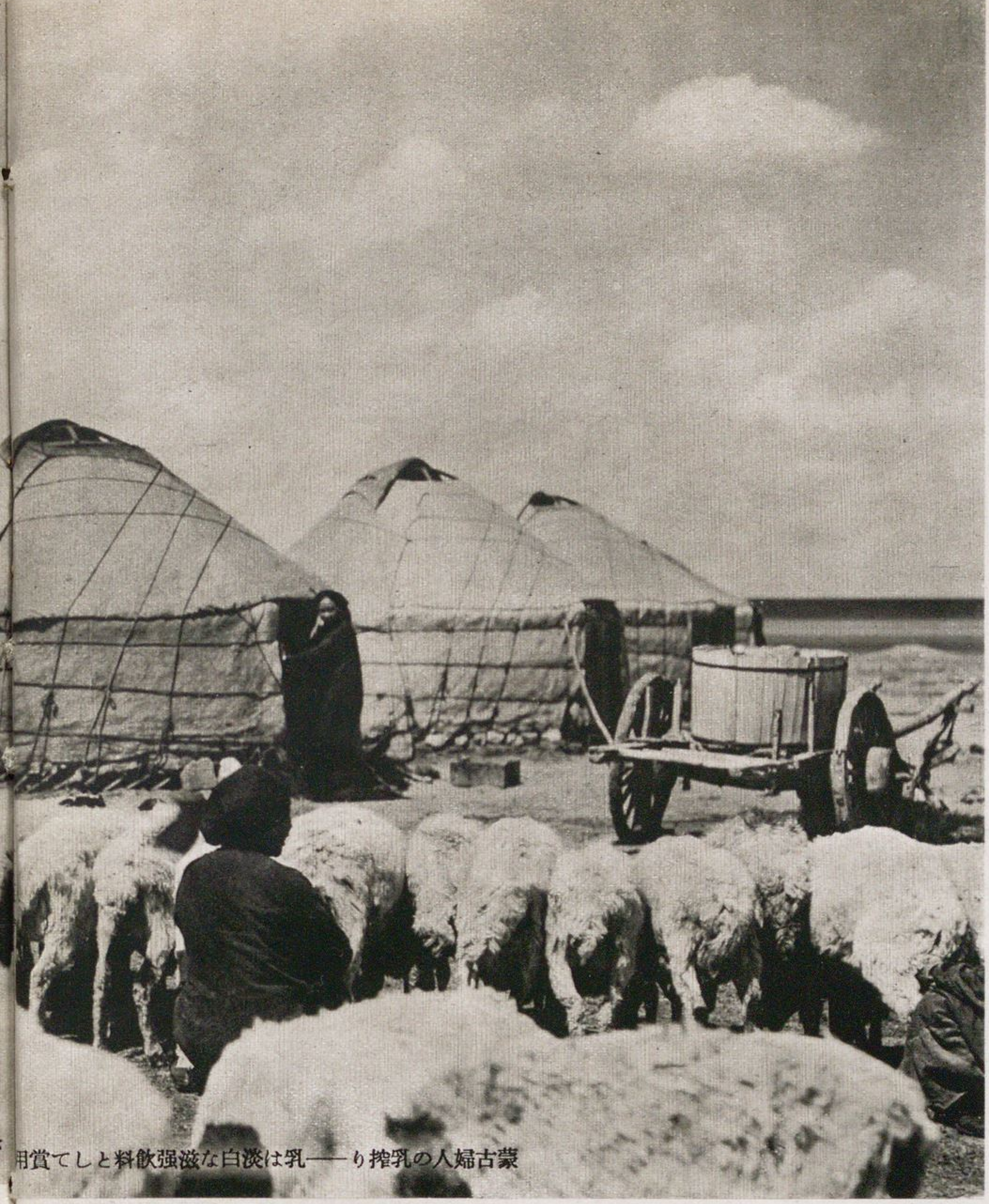
「嫁さんの仲人を頼んでくるやうになれば占めたものです」と、或る警務段員が言つた。「鐵道は俺たちのものだ……」といふ觀念を骨の髓まで叩き込まうといふのだ。

北支、蒙彊の愛護村は現在八千ケ村、千五百萬人。現在、日支蒙提携の最も端的に表はれてゐるのは鐵道であらうが、やがて自動車路線にも主要河川にも愛護村は擴大されるであらうし、之等の交通網を中心とする愛護村の健全な發展に、今後の一切の期待がかけられるといふも過言ではあるまい。

——圖は〃匪賊現る〃を急報する村民の連絡徑路を示す——

# 蒙疆

# 羊



蒙古婦人の乳搾り——乳は淡白な滋強飲料として賞用

北京から蒙疆へ來る旅行者は南口や居庸關の峨々たる山山や、深い絶壁の谿を通り外部萬里長城の廢門を過ぎると突然、壯大な草原の展開するのを見るであらう。ゆるやかな圓みに滿ちた丘の上に青い牧草が繁茂し、純白の蒙古馬に跨つた牧童が地の果へ競馬の騎手の樣に走つて行くと、それにつれて潮の流れのごとく羊の群が動く。それが夕暮れであれば大陸特有の赭い太陽の光線が鈍く蒙古包に反射しそこはかとなく夕靄が高原一帶を罩めようとする。まことに平和な、清純な、旅行者をうつとりさせる風景である。

蒙疆の羊は馬とともに蒙古人にとつては大切な生命の糧である。幾百、幾千頭の羊の群と共に草を求めて此處から彼處へと蒙古高原を漂流するのである。

羊毛は蒙疆全體から一年に三千五百萬斤も採れ全支羊毛產額の七〇%を占めてゐる。これを地方別に分けて見ると、現在の蒙疆政權地域と青海、新疆、甘肅、寧夏地方から來るものに分れる。以前は外蒙からも多量の羊毛が沙漠を渡つて入つて來たのであるが、今はソ聯の外蒙古侵入によつてすつかり來なくなつてしまつた。

羊毛の奥地からの輸送は主に牛や駱駝、馬等によつて行はれるが黃河上流の蘭州——寧夏地方から搬送されるものには甚だ面白いものがある。四肢のついた儘の皮筏に羊毛をつめて二三百里の黃河を下つて來る。この皮筏には羊皮筏牛皮筏の二種類がある。その構造は牛、羊の頭、脚、尾部を切りすて、首から體內の骨、肉、內臟をとり去つて皮袋にし、羊毛を入れ更に空氣を吹入れて膨張させたものでこ

SHEEP IN MONGOLIA OFFER US USEFUL RAW MATERIAL

の皮袋を七、八十も連ねて一つの筏を作るのである。

これらの羊毛は事變前までは包頭、張家口を經て天津に集まり大部分はドイツとアメリカへ輸出され、日本へは少量のカシミヤ毛の外は殆んど輸出されてゐなかつた。しかしながら日本と蒙古羊との關係は欽明天皇の御代に始まる。當時朝鮮を經て蒙古羊が獻納され、羊毛を絲に紡いで計牟志呂と稱されるものが織られたと云はれる。これが日本におけるホームスパンの開祖と云ふべきものであらう。又文化二年、毛織物の製造を試みるため肥前の浦上村に蒙古から移殖したのであるがこれは惜しくも飼育方法の不完全のため斃れてしまひその試みも中絶してしまつた。尚文化の末年に幕府は奥詰醫澁江長伯の建白によつて長崎奉行に蒙古羊若干頭を購ふことを命じ、これを江戸巣鴨の藥園に牧養し長伯に飼育管理を命じた。彼は細心の注意を拂ひその飼育に努めたので遂に三百餘頭に蕃殖した。又年々二回に亙つて剪毛を行ひ濱の藥院にある織殿に下して絨巾を織らしたといはれてゐる。

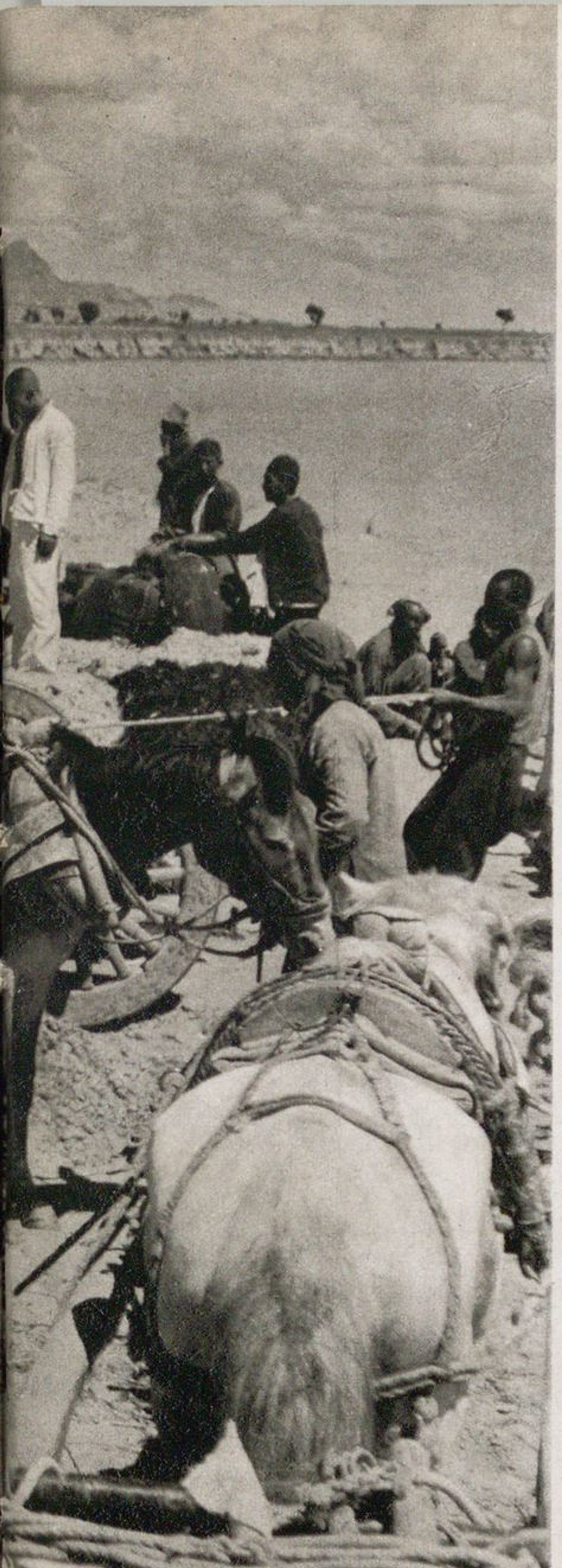
現在我國での羊毛消費量は三億ポンドの多額に上り、その殆んどが外國——主に濠洲よりの輸入によるもので、蒙古からの輸入は前述のごとく見るべきものがない。これは緬羊に關する蒙古人の知識が甚だ低く原始的な飼育を行つたことと、古くから習慣上羊毛採取以外に食用に供するといふ觀念が強く働いてゐたこと等によつて素質が非常に落ちる上に現在日本に使はれてゐる紡績機にかゝらなかつたからである。然し今後日本ではこの氣候風土に適した蒙古羊毛をうんと利用しなくてはならない。そこで必要となつてくるのは現地指導による品質の改良と増産、工場設置等の改革である。現在蒙疆政府當局では質をよくするためイギリス系の優秀な羊を輸入して、よき第二世を作ることや、保護、増殖のため牝羊の屠殺を禁止するやら、胎兒の强制保護、牡の移輸出制限等の對策が講ぜられてゐる。現在蒙古の羊は一頭當り一ケ年の採毛高が一斤内外に過ぎないのであるが、改良すれば六斤乃至八斤まで向上する。洋々たるかな蒙疆羊毛の前途!!



さされるほか乳酪に作られる　徳化（張家口西北三十五邦里）所見——



黄河に浮ぶ羊毛輸送の牛筏・・・・包頭所見・・・・



包頭の南方、黄河河岸南海子に於ける渡船



取引所に搬入される羊毛——包頭

羊毛運搬の一輪車——包頭城内所見——



# 羊 その二

SHEEP IN MONGOLIA OFFER US USEFUL RAW MATERIAL NO.2



から馬車へ羊毛の積換へ、向うに見えるのは黄河



羊毛の整理乾燥——包頭所見——



所見—




# 厚生保健に

強力ビタミンB劑

# オリザニン

**ビタミンB** といふ榮養素は單一のものではなく、數種の榮養素の複合體であるが、就中ビタミン$B_1$と$B_2$の二成分があることは決定的で、現在ではこのビタミン$B_1$を結晶として抽出することに成功し、オリザニン注射液はこの結晶を溶呼せしめた純粹品である。

**この$B_1$** の缺乏が脚氣症狀を來すことは確實だが、之が缺乏すると脚氣が現れる前にどの程度に身體に異常を認めるかといふと、このB缺乏食を攝ると間もなく徐々に感覺及び運動の障碍、循環器障碍、浮腫等の症狀が起つて來る。

**日常** 攝取する食物中、他の榮養素が如何に豐富でも、このビタミンBを缺く時は前記の脚氣を始め、疲勞衰退、結核の進行、小兒の自家中毒、食慾不振、妊娠、產褥、授乳時に於ける諸障碍等が起り正常なる健康を保持することが出來ない。豫防醫學の見地から、ビタミンBの始祖たるオリザニンが實驗諸家から推奬されてゐるのも蓋し當然であらう。

（粉末・錠劑・液・エキス・注射液各種）

**説明書進呈**

東京市日本橋區室町

三共株式會社

# 北支の農村 一

みづの・かをる

題して北支の農村と大きくかゝげたものゝ、さて筆をとつて見ると、何を書いていゝか、筆者も迷はされる。

すでに北支の農業資源や、自然條件などに就て書いたものは、汗牛充棟もたゞならない有様なので、敢てこゝに書き出すほどのこともないと思ふ。

今次の事變が起つて、北支の農村は斷然寵兒になつてしまつた。北支を見北支を語るには、先づ農村問題を一とくさり入れんことには始まらない位、北支の農村事情は世上に喧傳されてゐる。

しかし、殘念なことには、一應大まかな、棉花がどうの羊がどうのと言つたものが話題にのぼる位が關の山で、農村の眞の姿を手にとるやうに教へてくれるものはない。

と言つて、筆者も同様そんなに深く農村を知つてゐるわけでもなく、又こゝにそれを究明しようといふ野心もないが、幸ひ六年の北支在住中に、田舍を歩き廻つて旅に拾ひ、街頭に見聞し或は自ら調査したものゝうちから、世にかくれた農村事情、農民の生活、農民の慣習等々を輕く描いて、北支の農村を、より深く認識して貰ふよすがとしたいと思ふのである。

## 一、畑の境界

「道に落ちたるを拾はず、畑の境を爭はず」とは堯舜の世の泰平を謳歌した文句であるが、春風秋風幾千歳の今日、この疲弊しきつた北支の農村に、こんなことが尙あり得るであらうか。それは不幸にも、そのかみの鼓腹擊壤の世の語り草に過ぎないものになつてしまつた。

食足りて禮節を知るてふ古人の言葉を裏書きするやうに、道に落ちたるを拾はずどころか、三間先行く人の落し物でも、手につかんだら死んでも離さないといふのが、今の北支農村の世相である。

だが、さうしたあさましい性癖をもち個人主義な北支の百姓が、第二句の畑の境を爭はずといふ心境だけは、今日まで依然として、昔ながら持ち續けて來てゐることは、むしろ不思議にさへ思はれるのである。百姓は土地あつてのもの種、田畑に愛着をもつのはあたりまへであるが、私は北支の百姓位土地に執着をもつ國民は、世界の何處をさがしたつてそのたぐひがないとさへ極言したい。彼等にとつては、土地を手離すことは罪惡であり、土地を賣るものは世人から嘲笑される。百姓の一生の切なる念願は、少しでも多くの土地をもちたいといふことであり、土地を手に入れることが祖先への唯一の報恩の道であると考へてゐることは、讀者もすでに小說「大地」に見聞されたことであらう。百姓出である筆者は北支の百姓のこの氣持ちには、全く頭が下る思ひがするのである。而も一握の土を愛し、寸土を惜む彼等が、畑の境を爭はないといふのであるから、益益不可解であるのである。

日本だつて境界爭ひは常住不斷到る處にある。これは日本では土地が狹いからと云ふ理窟をつけるなら、北支だつて土地は廣いが、一戶當りの耕地は日本のそれと大した相違はない。一町步そこそこで、むしろ河北山東の平野に於ける七、八割の百姓は、五六反以下の小百姓であると言つていゝ。

これに就いて私はかう考へる。境を

## 內容

爭はないといふことは、北支農村に、唯一な、もつとも氣高い百姓道德として今日まで殘され來つたものであること、それがなぜ殘されて來たかと云ふことは、北支農村の部落が同族關係をもつてゐるものが多く、從つて所有する畑の隣り同士が、遠い近いの區別はあれ、お互の身内のものが多いことに起因するのだと思ふ。北支では百姓の土地に對する極端な執着から、地權の移動が非常に少く、隣接の畑が他村の赤の他人が所有してゐると言つたやうなのが少い。その點日本の畑のやうに、地權の離散集合の多い、他人同士の錯綜した耕地とは、稍〻その趣を異にしてゐる。

北支の畑は御承知のやうに、大半は海のやうになだらかな平野である。山畑や水田は別であるが、あののつぺらぼうの畑であるのだから、一寸考へると、よほどはつきりした境界物でもないと、すぐ隣の奴からちよろまかされさうに思ふのであるが、その實、畑の大部分が境界物が無いのだから又不思議である。僅かに一本のあるかなきかの淺い溝らしいものがあるだけで、これも作物を播きつけてしまへば、境など一寸見てもわからない位である。

春先廣い一面の大畑だと思つたのが夏から秋にかけて、大豆、高粱、粟、玉蜀黍と、各作物のとりどりが伸びると、目も綾なす縞のやうに小さく區切られてゐることに氣付いて、だれもが一驚させられるのである。むしろ境が無いといふのが當つてゐる。

もつとも日本の畑の樣に境石を置いたり、大きな溝や堤を築くといふことは、一つには北支の耕作が家畜によつてゐるために邪魔になり、不便であるといふことにも大きな理由があるにはある。それにしても、境を造らず、境を爭はない北支の百姓を私は愉快に思ふ。

だが、境も全く無いではない。山畑などは、自然と段々の畑となり、アルカリ地などは、耕作の方法から自ら境をなして居り、平野の畑にも時には境をつくられてゐる。が、これも日本のやうながんじやうな石などで、境をつくられてゐるものは先づ見當らないと言つてよい。

境界物で一番風流なのは、ネジアヤメである。これは到る處に見受けられるが、決して境界の全部には植ゑてはゐない。長い境界線に二、三株あしらつてゐる位である。ネジアヤメは支那語で馬連草（マーリエヌツアオ）と言ひ、葉が伸びると名の文字通り、樹木の少い畑の中にはこれに驢馬を繋いだりする。

春播きつけを終へたころ、廣い耕野の中に一と株のネジアヤメが濃紫の花をつけてゐるのは、なんとも言へない美しさである。境界物といふよりも、むしろ一つの百姓の可憐なたはむれとでも言ひたい氣持ちがする。

風流なのにもう一つ黃花（ホアンホワ）といふ百合科の植物がある。秋、黃いろな花をつけて、百姓は目をたのしませ、花をちぎつて來て汁の實としたり、油に揚げたりして食べる。いゝ味をもつてゐて、支那料理に珍重がられてゐるしろものである。

山東中部地方へ行くと、喬木仕立の桑の木が境木となつてゐて、兩隣りが仲よく採取して蠶を飼ふ。境を隣人と樂しむといふ境地である。

河北、山東には棗の木が多いが、これが又屢〻境木として利用され、果實は山分けしてゐる。境がとりもつ美しい隣人愛がこゝにも湧いて來る。

蒙疆地方へ行くとドロの木の境を見受ける。下枝をおろして電信柱のやうに並んだのは誠に美觀である。成長しきると隣人同志が切つて、親の植ゑた木に思はぬ利得を受けて、今は世に亡き親の御恩を偲ぶといふわけである。

砂地の畑の多い地方に行くと、境木として、桑や柳の根刈仕立をやつて、一種の防風林を作つてゐる。これも兩方で、毎年秋仲よく刈つて分け合ひ、薪のかはりにしたり、籠編みの材料としてゐる。

山東の半島地方へ行くと、境木としては接骨木が多い。毎年刈るものだから、一株何十本といふ小枝が出來て、春先に芽が出たところは、丁度綠の饅頭笠を置き忘れたやうである。

又山東の高密地方や、冀東の渤海沿岸地方に行くと、アルカリが強い關係から、境は大きな排水溝をつくつて、雨の度にこゝへアルカリ分を流すやうにしたり、或は反對に、アルカリ分の強い表土を毎年削りとつて境に積みあげて、大きな堤を造つてゐるものもある。これは百姓にとつては不本意なものに違ひないが、耕作上又止むを得ないからであらう。

私は北支平野の美觀は、春播き終へた黃一色の坦々たる中に、小島のやうに新綠の部落が浮んでゐる情景だと思ふ。もしも盲縞の如く區切られた畑に日本のやうに境界物が、あの平野に亂立してゐたら、どんなに嫌な氣持ちがすることかといつも思ふのである。

（未完）

# 北支蒙疆 資源の話



小島徳三

眞夏の太陽がかんかんと照りつけ、薄桃色の夾竹桃がほころびる頃、北京や天津を一歩離れますと、キラキラ陽光を浴び大理石のやうに輝く純白な棉花畑が一面に展開します。紺青の空の下で緑と赤の着物を着た娘や細君と、日にやけたたくましい農夫達が眞白に綴られた黄土の涯に點々と動く姿はまことに美しいものです。

支那の棉花の起源はまことに遠く、支那へ佛教が渡來した頃、印度からもたらされたものです。棉花はすこぶる耐旱性に富み、また北支にあるアルカリ土壤地に適してゐるので、以來急激に發展しました。

現在北支三省（山西、河北、山東）における棉花の作付面積は全支棉花作付面積の三〇・二%、その生產額は全支生產額の三〇%で、五百餘萬ピクル（一ピクルは約百斤）を產し、支那全省では一千四百餘萬ピクル、米國、印度に次いで世界第三位になつてゐます。

棉花は皆さんも御承知の樣に人間生活と極めて密接不離の相關性を持ち、多大の天惠を人間に與へてくれてゐるのです。即ち人類の被服材料の殆んど大部分が棉花製品であり、その用途も綿絲、綿布、ロープその他綿火藥、人造絹絲、セルロイド、紙等の工業原料として甚だ廣範圍に亙つてゐます。

ここで一寸申しておきたいのは綿火藥のことです。私達はこの發明が西洋だけでなされたものと思つてゐましたが實は元時代蒙古族の手によつて已に發明されてゐるのです。彼等は漢民族の都市を攻撃する時、城壁に火藥を仕掛けてこれを爆破する武器に用ゐて居ました。皆さんは先日日本に參りました米國映畫「マルコポーロの冒險」を御存知でせう。あの畫面の中に支那の老人が花火を弄んでゐる。それを見たマルコポーロが非常に驚いてこれを戰爭に使つたらどうだらうと呟いてゐます。まだこの場面を記憶されて居る方もあると思ひます。支那には古代から右の樣に化學の部面においても西洋のそれと比肩されるすぐれた物が多々あつたのです。しかるに支那の貪慾な封建制度のために發達が遅れたり、跡かたもなく消え去つたことはまことに殘念なことです。

現在我國の綿絲紡織は本邦重要工業の冠たるもので一ヶ年間の綿絲布製造高は已に十數億圓に上り、最近まで紡織界に覇を唱へてゐた英國を凌いで世界第一位にあります。然し遺憾なことにはこの原料たる棉花のすべてが海外からの輸入によるもので、我國にはその產出が全然ないことです。更にそれを中國、滿洲について見ても人口五億の八〇%が農民で衣服の全てが綿製品なのであります。かくの如く棉花に關する問題は日本及び中國の國民生活から考へても、國際貿易上から見ても極めて重要なことであり、棉花資源の獲得は一刻もゆるがせに出來ないことです。しかし事變後國際外交上における日本のデリケートな立場を考へるとき棉花輸入についても一抹の不安が漂はない譯にはいかないのです。かくて日本が求める最良の適地として北支を措いて他に求める場所はないやうです。

北支棉花の主產地は黃河の流域で、南運河や子牙河を利用して幾日もかゝつて、天津や北京の市場へ運んで來ます。又その途中にはところどころに關所があつて匪賊達に通行税のかたちでお金や現物の棉花を拂つて通過します。日本の人達は匪賊に税を拂ふなんて、そんなべら棒なことが……とびつくりされるでせうが、そこが支那式です。支那の農民達はこんな出來ごとを當然だと思つてゐます。天津や北京に集つて來た棉花は大部分地場で消費されますが、極く少數の蒲團綿が日本へ向けて輸出されてゐます。十九世紀の末葉には米國における南北戰爭の影響を受けて當時は歐洲へ向け毎年四十萬ピクルの棉花が輸出されてゐました。今では六萬ピクルに減少してゐます。

北支の棉花の增產問題は國民黨時代にあつても鋭意研究を進められてゐたのでありますが、現在ではすでに北京政府が主體となり日本側機關の協力を得て十ヶ年計畫、一千萬ピクルの增產計畫が樹てられました。この計畫が完成された曉には、これだけでも我國需要の大部分を供給し得るわけでこの計畫には多大の期待が持てます。支那棉花の將來は洋々たる希望にみち溢れてゐると云へませう。

×

鹽は人間生活にとつて一日も缺くことの出來ない必需品であり、之が食用に供されることは勿論、化學工業の原料として逐年增加して居ります。日本

における鹽の生產額は僅かに六十萬トン、日本消費量二百五十萬トンの二四%に過ぎません。殘りの百九十萬トンが輸移入によつて漸く需要を充してゐます。又內地鹽は食料鹽であり、工業鹽に至つてはその全部を外地鹽の供給に俟たねばならぬ狀態にあります。

ところでこの工業鹽を容易に且つ速かに安價に供給する地區を求めますと先づ臺灣、關東州、滿洲及び北支の順となりますが、臺灣の鹽は土地や氣候の關係から增產の點に難點があり、關東州や滿洲では其の地に化學工業が發達しつゝあるので內地への供給を期することは出來ません。この點から日本の要求を滿たして吳れるのは何といつても支那だと云ふことになります。

支那の製鹽は漢民族の南征によつて苗族が西走し、漢民族が揚子江、黃河の流域である天惠の肥沃地を征服した時に始まります。神農の時代その諸侯だつた宿州氏が揚子江の河口に海鹽の製產を圖り、これを神農に獻納したので、神農は大いに喜びその製鹽を奬勵致しました。堯帝の時代にはすでに禹公が鹽に稅を課することを始めてゐます。この鹽稅はそれ以來歷代王朝の有力な財源となり、支那皇帝の腹を肥やしました。また周代になりますと四川に井鹽、山西に池鹽、陝西に岩鹽が發見され盛んに利用されて居ります。特に四川の井鹽は飴鹽と稱し最も珍重され王侯の膳のみに用ゐ、一般庶民の採取を禁じました。

その後支那の鹽業はだん／＼發達し齊の時代靑州（今の山東省）に產する無盡藏の鹽に着目した齊の參謀管仲はその鹽田を擴張し、官營となし人民の私營を禁じ專賣制を取る樣に致しました。これが今の山東鹽の濫觴です。この山東鹽と共に支那の二大鹽地と稱されてゐる長蘆は宋の時代には小さい鹽田に過ぎなかつたのですが、金朝を經て元の時代になりますと、こゝに鹽業が發達しました。元はこの地が天惠の製鹽地で品質も佳良であるのに注目し主力をこゝに注ぎ模範鹽田を作つて盛んに製鹽を行つたのです。その產額は巨大に上り且つその利潤は莫大なものでありました。長蘆といふ名はこの地方が蘆の產地であるからです。昔は二十場近くも黃河に面し、蜿蜒とその鹽田が續いてゐたのですが、國民政府によつて制限され現在では蘆臺と豐財の二場だけになつてゐます。然しそれでも一ケ年の生產額は三十五萬トンに上り、これを積み重ねますと、日本で一番大きい建築物と云はれる東京の丸ビルを三ツ持つて來ても入りません。また最近我軍によつて確保されました海州といふ新通商港はもと東海といはれたところで、靑島と上海の中間にあり商業都市として、將來素晴らしい發展が期待されてゐますが、この附近一帶は山東鹽、長蘆鹽とゝもに支那における鹽の產地として重要視されてゐます。

北支の鹽はこの海州鹽、山東鹽、長蘆鹽を合せたゞけでも年產百三十萬トン、我國消費高の半數以上を供給することが出來るのです。我國にとつてまことに心强い限りではありませんか。

長蘆鹽については事變後永利公司、久大公司を委任經營してゐました興中公司の手によつて增產第一期計畫が樹立されてゐます。

この計畫は資金五百萬圓を以て五ケ年間に主として休止鹽田、荒廢鹽田の復活を行ひ、更に新規鹽田の開發にあてる筈です。この新規鹽田面積は第一期六千町步に亙るまことに大きなものです。この計畫には從來の古式鹽田法によらず機械化鹽田の完成に努力し、これが事業費として一町步當り五百圓を注ぎ込む豫定です。この增產計畫完成後の對日輸出は優に五十餘萬トンの可能性をもち、この第一期計畫完成後は直ちに第二期計畫六千町の開發に當るのです。この第一期、第二期の增產計畫が完成しますと長蘆鹽田は既開發鹽田を合して三萬七千餘町の大鹽田となり生產總額二百萬トン、對日輸出額百萬餘トンが確保されることになります。又この興中公司の開發とは別個に東拓でも長蘆開發に乘出し、東拓出資六百萬圓、渤海鹽業出資四百萬圓で東亞鹽業株式會社が設立されました。

山東鹽は一時日本系の會社によつて開發されてゐたのですが山東租借地還付と共に鹽業に關する權利も消滅し、單に日本向の輸出權だけが留保されてゐましたが事變後、日華興業、大日本鹽業、田中商店、三井、三菱等によつて資本金一千萬圓の山東鹽業會社が創立され本年三月より開發に著手してゐます。

山東鹽の年產能力は現在靑島附近三十萬トン乃至三十五萬トン、山東東海岸鹽十五萬トン、合計五十萬トン弱に過ぎないのですが、五ケ年計畫を目標に新規鹽田の開拓、鹽田の改良により年額三十萬トン乃至四十萬トンの大增產が計畫されてゐます。

かくて天然に惠まれた支那の鹽業は技術日本の協力下にどん／＼開發され急激な發展を示すでせう。

# 可園雜記 二

加藤新吉

北京の味は半ば胡同に在る。城壁や樓門や故宮の黃甍碧瓦と共に胡同は北京をつくる大切な要素である。

南面して王と稱する支那、王都も王宮も南面して建つ。北京も南面して正陽門を開いて居る。その昔、長安の都が碁盤の目に盛られて以來之を模した歷朝の都の形式として、北京の大街も皇城を中心として正しく東西と南北とに走る。從て胡同即ち街と名づくる大通以外の通も亦東西か南北かに鑿然と通じて居るのが普通である。だが裏町になると迂餘曲折、袋小路を加へて所謂迷路をなすこと珍しからず。私の見たのではスペインの古都市、特にグラナダのアルバイシンを最とするが、北京哈達門内の裏路なども之に近い複雜さである。

胡同に見るものは牆と門、右も左も土の牆と木の門、それだけである。而も其門は夜となく晝となく閉されてある。厚い木の扉は黑に塗り或は朱に塗る。或は二行の美辭麗句を書く。正月には春聯を貼り門神を懸ける。さうした門ところどころ、あとは牆ばかり。雨には泥の沼、晴には白い砂塵が舞ひあがる。これが胡同風景である。

ちやかちやかと金具の音が響く。門を敲く人ありといふわけだ。看門的又は家人が其名を訊ね其人を確かめてからでなくては門を外さない。官廳か商店でない限り門を開けて置くことはない。門を閉して靜まり返つてゐる商店さへもある。老子の良賈は深く藏して虛しきがごとしと謂ふのであらう。

ある支那戲曲の邦譯に看門的を門を看る的のものとしてあるが、御叮嚀過ぎて判然しない。戲曲は概ね口語、從て漢文とは些か違ふ。拉車的は車夫、看門的は單なる門番である。併し北京生活に於ける看門的の存在及地位が極めて重要であることを思へば、さう粗略には呼捨てられぬのかも知れない。

門番は人を入れる爲のものか、それとも斷る爲のものであらうか。私は曾てスコツトランドのさる舊邸を訪ねてすげなく斷られたことがある。日頃愛誦するバアンスの詩に出て來るのでわざわざ見に來たんだからと辭を卑うしての賴みにも私は人を斷る爲の門番だからと其男極めてはつきりして居た。北京の門番も亦かなりはつきりただでは人を入れぬものと解されて居る。

大官名士の類を訪ねても門番にすべきことをしないと、不在だ、來客だ、睡眠中だと門前拂を喰はされる。或は都合を聞いて來ますと何時迄も待呆を喰はされる。お出入の商人も常に其利益の一部を納めない限り亦然り。由來貴紳とか富豪とか呼ばれる者の邸宅程それがひどかつた。それだけ門番の株は高く評價されたといふことである。

くにがまへ、もんがまへ、等といふ文字の構造がとりもなほさず支那社會の構造である。芻蕘のものも雉兎のものも往く文王の囿が例外である。だから孟子がことさらに揚げたのだと思はれる。都市に壁、住宅に牆、それが支那式、北京も其式、例の糞土の牆はぬる可からずと謂ひ兄弟牆にせめぐと謂ふ牆で總ての住宅は劃られて居るだから門番に斷られたら最後入る途はない。支那の小說を讀むと、道ならぬ所業に及ぶ男が私かに其牆を踰えて來りまた其牆を踰えて奔る。公然且悠然と牆を踰えて怪しまれないのは猫ばかり、其猫が北京に多いのは妙である。

# 東文學社



村川駿介

東文學社は北京宣武門外上斜街にあつた。

光緒二十七年（明治三十四年）三月の設立で、明治三十九年九月袁世凱に讓るまで中島裁之氏によつて經營せられた。日本語を教へ日本語をもつて中等高等の教授を與へ且つは中國人の頭に日本の知識を教へこむことを目的とした。前後六年の間に千五百餘の學生を修學せしめたことが、當時外務省へ提出した「東方學社紀要」（明治四十年十二月編纂）に記錄されてゐる。

西南戰爭後間もなく米のゼンス海軍大尉が長崎に足をとめたが、後ゼンス大尉は熊本に出て一二年英語を教へたことがある。滿洲事變當時の外務大臣故內田康哉氏や岡田松生氏等と共に熊本出身の中島氏も當時ゼンスに英語を學んだ一人である。ゼンスは後に京都にのぼつて同志社大學を創設した。

明治二十年の頃、中島氏は笈を負つて京都に上り本願寺附屬學校に入學した。彼は既にゼンスの影響を受けて基督の信徒を以て任じてゐたが、此の附屬學校は當時日本に於て全課目を英語を以て教授する少數の學校の一つであつたので、英語に惹かれて入學したわけである。熊本時代同學の連中も七八人彼と共に入學したが、いづれも下駄に「南無阿彌陀佛」を書きこんで、踏繪の故事を彼等自ら逆に行つて基督信者たることを誓つてゐた。しかるに二年目から宗教學、佛教哲學などの講座があつて、六十點を缺くと進級を許されなかつた。それで已むを得ず六十點を取らんが爲め讀み進み學び進むに從つて、基督信者を以て任じた連中もみな不知不識佛教の信者となつてゐた。

中島氏が一念發起して大陸に私塾を開かうと志したのは日清戰爭以前の風雲急ならぬ頃だつたが、その資金捻出が何よりも先決問題であつた。而もその資金は狹小日本では求め得べくもない。猗頓の富を得んがためには支那大陸こそ働き場所と思はれた。彼は先づ上海に渡つた。當時岡山の人岸田吟香氏は樂善堂藥店を經營し、上海を本據に天津、漢口、福州等に支店を置いて眼藥「精琦水」で名を賣つてゐた。樂善堂主岸田氏は支那通の大先輩で、今日支那通を以て聞える人の多くが氏の指導支援を直接間接に受けてゐる。支那農民は坑をたいて寒さを防ぐため、十中八九まで眼を患つてゐる。そこで支那の賣藥行商は眼藥から始めるのが常であつた。彼も亦一瓶十錢の「精琦水」を殘り少い財布をはたいて仕入れ上海を後に行商の旅に出たが、囊中僅か二圓八十錢を殘すのみであつたといふことである。

彼は行く所到る所で大道賣りを試みたが、一瓶十錢の「精琦水」は支那農民には高價に過ぎ殆ど商賣をなさなかつた。そこで、彼は一案を按じ、眼藥と聞けば必ずおし寄せる多くの支那人に、誰れかれの區別なく一二滴の「精琦水」を點眼してやつた。「精琦水」は眼に入れると、少しくかゆみを覺える。支那人はかゆい眼藥はきくと信じてゐるので、早速良藥であることを信ずるのである。そこで前の日に明礬を水にとかしておいた藥水を持ち出し、一厘二厘或は一錢隨意の小買ひを許してやつた。その時買手は思ひ思ひの器を持つて來るのだが、器の大小に拘らず器一杯分けてやるやうにした。

支那では、商賣人でも藥屋だけは、「賣薬先生」と敬稱を以て呼ぶ。彼の一風變つた賣り口を見ると、支那人達は「先生は仁者である」とたゝへた。

かくて中島氏は流れ〳〵て雲南、貴州をのぞく支那十六省、三萬二千支里を涉破した。四川の重慶から油船にのつて揚子江を下つた折のことである。船員は六十名餘り、いづれも酷い眼病やら皮膚病であつた。彼は例の明礬水を作つて、何病によらず手厚く施療して代金をとらなかつた。當時中島氏は頭は丸坊子で、一尺豐かな黑髯をたれてゐた。船人達はたゞの醫者でない、四川の余蠻子に相違ないとした。黎元洪が第一期大總統の時代で、袁世凱は失意野に下つて清朝覆滅を策謀してゐたが、古老會の余蠻子は袁の招きに應じ四川一萬の兵を率ゐて北京に上ることが噂されてゐた頃である。

明治三十二年の秋、中島氏はめぐりめぐつて北京に上つた。その頃は漸く學校經營にたへる程の資財を得て、愈愈宿望の私塾設立に取りかゝり、前記の明治三十四年春開校の運びとなつたわけである。

既に日清戰爭の後のことで、中國に於て日本帝國の强大は充分認めらるべきでありながら、當時の中國人士は依然自ら强大とし、頗る懶惰、徒らに文

飾を尙んで實學を取らざる風が漲つてゐた。そこで忠君愛國の大義を起し國民の氣概を振はしめ且つは日本語を敎へ日本の學術を通じて國家需要の技能を與へんとした。東文學社においては、全科目を日本語で敎授したため、最初六ケ月の課程で大體外國語學校卒業者に相當する成績を上げた。

當時東文學社にあつては、日本の强大を中國學生に敎ふるため一方便が講ぜられた。といふのは、敎壇の後ろに日本と中國の二葉の地圖を掲げ、その地圖には日本を大きく中國を小さく描いてあつた。一見して直に日本こそ中國に幾倍する大國と判るのである。

當時此の東文學社で、中島氏から支那語を習ふ傍ら助敎として敎壇に立つたものに沖、横川、若林等の諸士があつたが、後彼等が日露戰爭の際特別任務を帶びて蒴北の地を馳驅して遂に護國の鬼となつたことは世人の耳に親しいことである。助敎沖貞介氏は一見奇異の風があつたが中國學生を敎ふるに頗る熱心、その態度心情は中島氏のそれと符合一致し、その薰陶方法も亦中島氏の希望する所にことごとく合致した。そこで彼は、同學社の全權を沖貞介に讓らんと思ひたつたこともあつたが、如何せん沖氏の支那語尙ほ未熟で中國の事情にも充分通じてゐなかつたので斷念したことが「東方學社紀要」に記してある。沖貞介氏は一種癖性あつて屢々他と衝突したが、酒の上で某新聞社主及び某參謀大尉と衝突し、中島氏が代つて謝罪し以後三ケ月閉門を申しつけられた事實も見えてゐる。

東文學社の經營に當つて中島氏は北京日本公使館から毎月百兩の援助を受けてゐた。その援助金を受けとる時は毎月例の尺餘の黑髯を撫しつゝ白馬にまたがつて日本公使館に赴いたものであつた。多のある日のこと、公使館で貰ひ受けたメキシコ弗の百兩の袋を腰に下げて、凍てついた北京の道をポカポカ宣武門外に向けて出た。馬上の中島氏は何やら漢籍に讀みふけつてゐたが、學社に歸つて袋をとつて見れば金がない。袋の底には小さな穴があいてゐるではないか。馬に搖られる度にメキシコ弗の重みで、ポツリ〱と落ちたに相違ひない。さう云へばその日に限つて馬の後ろに苦力達のざわめきやら、聲高に「修好得好修好得好」（よき修行を積めば幸福があるといふので、有難や〱程の意）と呼びたてゝゐたやうであつた。落しものは拾つた者の所有といふのが社會通念の支那のこと故わざ〱注意される筈もなく、「修好々々」を叫びながら我先きに拾得されたのであつた。

東文學社は追ひ〱學生も殖えて、諸設備の擴張を必要とした。かねての經驗で中島氏は行商を思ひ立つた。彼と共に若き敎師達も學業の傍ら、天秤を肩に、學生の家庭を中心に行商に出た。非常な賣行きで、今北京にある日華洋行はその頃出來て專ら東文學社の行商品仕入を扱ひ今日の基礎をきづいたといふことである。或る者は琉璃廠に出て日本の古本をさばいたり、列車行商にまで乘り出す程盛大であつた。

韓朝の頃、朝鮮には抱商負商と稱ばれる百六十萬人の行商グループがあつた。文字の示す如く一個の商事機關であつたが、傍ら政府の法令達示を津々浦々にふれ歩く役目を負ひ、同時にまた各地情報を政府に齎らすものであつた。東文學社の行商も朝鮮の抱商負商の如く單なる行商でなく中國民衆に日本を語り同時にまた中國民情との接觸面を深めんとしたものであつた。

東文學社は初め記する如く明治三十九年夏休みを終へて袁世凱に讓らるゝことゝなつたのであるが、如何なる理由に基くものか詳にしない。當時同學社に學んだ中國學生中に、前天津市長潘毓桂氏、華北交通會社理事陶尙銘氏元山西省々長何澄氏等があつた。



# 支那新聞廣告談義

森　太郎

北京や天津には「小報」といつて、普通新聞の一頁大のものを四つ折にした小型新聞が數種ある。手がるに讀めるのと、廉いのと（一枚一錢―二錢）大衆受けのする編輯で喜ばれてゐる。大新聞より廣告効果がものによつては大きいので、廣告が紙面の大部分を占めてゐる賑かさである。

　面白さうなものを拔書きしよう。

找Ｙ　史新民十八歲東鹿一間房人于十五日走失如有知其下落者請函崇外上四條福盛永當酬洋二十五元

尋ね人　史新民（人名）十八歲、東鹿縣一間房（河北省の地名）居住、十五日に失踪す、行方御存知の方は崇文門外上四條（北京の地名）福盛永（人名）に御報知下さい。謝禮は二十五元。

迷子が多いせゐか、こんな廣告は毎日二つか三つ出る。「找」は捜すの意、「找人」で尋ね人となるが「人」を逆さにしたのは、人目を惹くためと、早く歸つて普通の狀態に復してくれと願ふ意味も含めてゐる。二十五元と明示したのは、「思ひ切つてこれだけ出すぞ」と威張つてゐる。たいていは金額を出さない。

徵女友　某君年卅餘月入百元擬徵年廿餘身家清白女士爲友附像片函隆福寺華北廣告社五箱

女の友を求む　某君三十餘歲、月收百元、二十歲位の良家の子女を友に致度寫眞同封隆福寺華北廣告社私書函五號に申込みあれ。

　こんなのが毎日四、五種出る。何でも一回出すと二三十人の「女の友達」が寫眞をよこす。中には廣告社で聞いて家まで顏見世に來る勇敢なのもゐるとのこと。もつとも求める方も、求められる方も「身家清白」たらずとも好いやうで、あちこち自轉車で、かけもちで顏見世にゆく友達專門の商賣人女史？　も居るらしい。どんなことをする「友達」か筆者寡聞にして知らない。

鳴謝肺勞　小女去冬染肺病屢治無効經友介紹東四南報房胡同貴人關趙子才大夫診卅餘次治好電東二二六〇前外連陞店經理李煥章啓

肺病全治感謝　昨年冬娘が肺病になり種々療養せしも効無し、友人の紹介にて東四牌樓南報房胡同貴人關（北京の地名）趙子才大夫（大夫は醫師）の診察を受け、三十回餘りの治療にて全快せり、電話東二二六〇番前門外（北京の地名）連陞旅館支配人李煥章敬白

　これもざらに見うけるもの。病氣が治ると醫者の提灯持ちをしなければならないもののやうだ。患者の方で感謝感激のあまり出すものか、醫者の方で出せと要求するのか知らないが、この李煥章先生など醫者の方と、自分の店の方を電話番號まで入れて兩々廣告した手際は侮りがたいものがある。

陽臺陰雨珠玉瓦礫爲郎憔悴爲情死金屋夢魂香花供養百般恩愛百年身米高梅公司偉大榮譽貢獻世界文豪小仲馬不朽名著

神祕女郎　嘉波

唯一美男　羅勃泰來

導　演　喬治古柯

「茶花女」現在放映

とこれだけ讀んで、ガルボとテイラーの「椿姫」が來た！　と映畫館に馳けつけねばならないので一苦勞。北京の洋畫館は三つとも華人經營なので、華字新聞で何を上映してゐるかを見ねばならない。漢字の行列を眺めて

メトロゴールドウイン提供

文豪小デューマ不朽の名著

神祕女優　ガルボ

美　男　ロバート・テイラー

監　督　ジョージ・キユカー

「椿姫」上映中

と判讀できるやうになると名實共に「影迷」（フアン）の一人だ。

土與兵

本書係以此次中日事變爲背景之中篇小說。作者火野氏是一位從軍的鄕土詩人雖作者自稱不是小說，但自此書出版後，一月間竟銷售五十餘萬册。評論界說火野氏是遠東雷馬克，裏面充滿了人間最高的感覺的表見，是繼「西線無戰事」之後第二部偉大的戰事小說。現已出版

　火野葦平の「土と兵隊」は遂に支那語に譯され華字新聞の廣告にまで進出した。

　「火野氏は鄕土詩人？　で、極東の雷馬克（レマルク）？……」などと、なかなか上手なものである。

# 日本の障子

黄　子明

日本のものに、下駄のやうないやなものがあり、また障子のやうなとても好きなものもある。

紙貼り窓は支那の舊式家屋には極めて多く、このごろは洋風を眞似て窓にガラスを使ふことがはやり出したが、日本では純洋館建築以外の家屋では、たいていは紙窓であまりガラスは使はない。紫外線は紙のほうがガラスよりも透り易く、したがつて紙窓の方がガラス窓よりもずつと健康に好いわけだが、しかし私の障子を好く所以はなにもさう言つた科學的研究によるものではなく、たゞ情趣といふものに富んでゐるからだ。

紙窓は支那に於て古來いろ〳〵の詩材を與へ、蘇東坡の詩

歳云盡矣　風雨淒然
紙窓竹屋　燈火熒熒
時於此中　得稍佳趣

にも紙窓の情味がよく出てゐるし、また姜白石の詩

等恁時重覓幽香　已入小窓橫幅

にも、これまた紙窓特有の情味が浮んでゐる。

障子は普通閉めてゐるのでガラス窓のやうに外から見えないし、また内からも外が見えないのでとても靜かで、室内に射す光線も、室外に映る燈の光も、そのやはらかさは誠に感じが好いし、その影繪のやうに障子に映る人影などは殊に情趣がゆたかで、日本の障子でなければ味はれぬ優しいものである。

日本の障子のよさは幾つもある。棧が細く極めて簡單で、紙の露出場面が廣い。棧が太くしかもそれにいろ〳〵な模樣をゴテ〳〵と彫刻して、紙の露出場面があまりに小さい支那の窓にくらべてずつと好い。これがその一つ。

もと〳〵日本の家屋の木材は柱といはず、天井といはず、椽にしろ、階段にしろ、みんな自然のまゝの白木を使ひ障子も亦うるしやペンキを塗らぬ白木材で造られてゐて、幾年かたつとちやうど楠のやうな淡褐色に變り、それが貼つた白紙との色の調和がとても好い。これがその二。

日本の障子は輕い木で造られてゐるのにかかはらず、狂ひ、歪みがなく、そして開けたてがすら〳〵と氣もちよくゆき、ドアーのやうないやな騷音をたてない。これがその三。

支那の窓紙も多くは日本からの輸入品であるが、日本の障子紙ほど好いものではない。日本のは實に淸らかでそして紙の繼ぎ目を棧の上で貼つてあるため、繼ぎ目が見えないのも好いし、また拭き掃除がゆきとゞいてゐるので紙にちつとも埃をとめないことは誠に好い。これがその四。

日本趣味の愛すべきもの丶一つは淡雅といふことである。盆栽のごとき、茶器のごとき、また庭園のごとき、いづれも雅人の夙に觀賞するものであるが、私はその淡雅の代表的なものとして障子を推したいと思ふ。もし日本に障子といふものがなくなつたら、恐らく一切が情緖を激變してしまふであらう。庭園も日本固有の雅致を失ふであらうし、茶器も亦雅趣の調和を失くしてしまふに違ひない。

今日の支那各地の紙窓は私の觀るところでは、その構造も、情緖も、遠く日本のそれに及ばない。東坡や白石の詠じた紙窓は恐らく今日のやうなものではなかつたに違ひない。

# 美しき北京

北林透馬

北京が、世界で一番美しい街だ、と言ふことや、一番棲み好い街だ、と言ふやうなことは、既に定評があるけれど、その美しみや棲み好さは、かなり複雜なものだ、と思ふ。

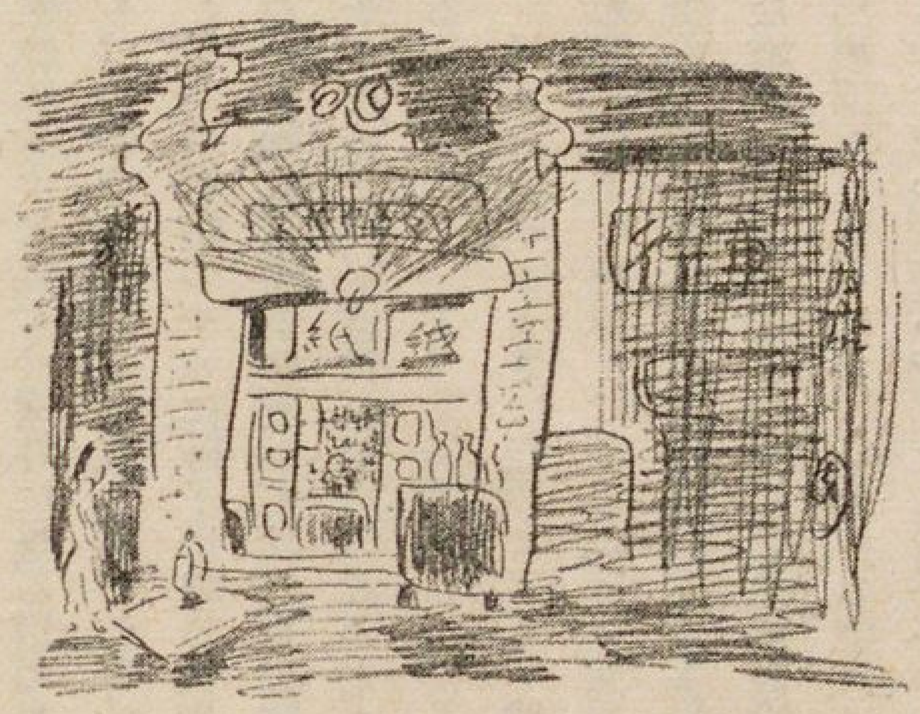
北京の美しさ、は、言はゞ發展性の無い美しさであり、生活を失つた生活の、靜かさだからである。

萬壽山は壯麗だけれど、支那一〇〇年の運命を賭けた、敗れたギャンブルにすぎないし、街を歩く人々の靜かな表情は、あらゆる生きる望みを失つたもの〻、云はゞアイボリー・マスクであるからである。

僕等は、そんな美しさに溺れたり、そんな風な生活態度に低迷したりしては不可いのだし、そんなものは現在の僕等に全く魅力は無い。

柳絮飛びかふ古き都……

其處には、小鳥を枝の先にとまらした支那人が、朝あけの澄んだ空氣のなかを影のやうに歩いてゐるし、赤いポロシャツを着たブロンドの娘が、ペダルを踏んで、柳の木立の蔭を音も無く疾走して行く。



晴れあがつた青い空に、紫禁城の黄色い甍が寶石のやうに映り、北海の水には綠濃い樹木が、くつきり影を落してゐる——

五千年の文化と、四億の民衆——あるひはその何倍かの——とを背景に持つてゐることを考へれば、些して驚くにもあたらないことだし、今更のやうに感心しても始まらないことだ。

それよりも僕は、西直門につゞく城外の、不潔極る支那人街のなかに、日本人の小さな商店を見出し、支那人に混つて、ほこりだらけになつて働いてゐる若い日本人の姿を見て、遙かに强い印象を受けた。

トラックを驅つて、街を疾走してゆく軍の人々のことは暫く言ふまい。

働いてゐるのは、その人々ばかりでは無かつた。

新たに華北交通會社が設立され、舊滿鐵北支事務局の人たちは、文字どほり寢食を忘れて、新しい建設の爲に働いてゐるし、新民會の若い人たちは、生命を投げ出した全生命的情熱を傾けて、新しい秩序のために働いてゐる。

北京の美しさは、そんなところにあるのでは無いだらうか。

前門の姑娘に美しさを見るよりも、新民會の制服を着た青年のはうが、遙かに美しいでは無いか。

景山のルリ色の高塔よりも、華北交通の古びた赤煉瓦の建物のはうが、ずつと美しいのだ。

北京の街に見る日本人の姿は、それが男である限り、いづれも美しいけれど、婦人達は、併し、必ずしもさうでは無いのが、僕は少し殘念なのだ。

街に見る日本の女は、花柳界、若しくはそれに準ずる人々としか思はれないやうな姿の人たちが、壓倒的に多いやうに思はれるのは、僕だけの感じであらうか。

僕は決して、その人たちを沒義道に頭から輕蔑し去らうと云ふのではないのだ。

たゞ、もつと潑剌とした、生きた生活を持つた職業婦人の美しい姿を見たい、としきりに思ふだけなのだ——



＊　＊　＊

# 支那芝居雜觀 二

石原巖徹

◇新傾向文武老生劇に就て….

從來の演出法は、主として主演俳優の技藝のみを觀せる（或は聽かせる）ことにあつた。從つて脚本も概して短かく、舞臺面に現はれた筋も簡單であつた。劇の本場である北京の、古いフアンや、通を以て任ずる人々は、今日でもそれでなければならないとし、それが支那劇の特長であるとしてゐる。かうした演出には、從來の如く、舞臺装置は殆ど無く、大小の道具も殆ど使はないで、すべてを約束で片づけて行くことが、むしろ合理的でもある。人に依ては支那劇のこの約束的、象徴的な演出の方が高級であつて進歩してゐるとも云ふ。外國でやつてゐる様な寫實的な演出は却て幼稚であり、いくら苦心したところで、映畫に及ばないし結局淺薄に墮する。到底在來の支那劇の深味を出すことはできないと云ふのだ。

かうした支那劇再認識論は歐洲人の内にもあるし、世界の演劇界に於て確かに興味ある問題であるが、それにも拘はらず、近來の支那人大衆は上海から起つた寫實的な演出法に對して興味を持ち、北京に於ても漸次それが傾向をリードせんとしつゝある。こゝに寫實的といふのは、從來の主演俳優の技藝のみを目的とした演出と異り、端役にもそれ相當に活躍させると共に、舞臺装置、背景、大小道具等を使用して外國の演劇に近い演出を用ふる一方、在來の歌曲、音樂、臺詞、所作等はそのまゝ踏襲するのである。その結果必然的に脚本は複雜化し、筋を見せる芝居といふ傾向が強くなつて來る。

革新的な上海派は、これがために種種の新作劇を上演し、寫實も邪道のそしりを免れ難いやうな天勝流の奇術を應用したり、眞物の馬を舞臺に上せたり、セパードを使つたりして極端に走るが、北京では流石にそこまでは行かないで、在來の劇で關係のある幾つかの脚本を繋ぎ合せたり、或は新解釋に依つて在來の劇を筋で見せるやうに作り換へたり、上海派のもので無難な種類の劇を借用したりなどして演つてゐる。これを筆者は假りに文武老生劇と呼ぶのである。即ち在來の劇は、老生劇、武生劇といふやうに大體明確に一定の型が定つてゐたが、この種の劇になるとそれが明瞭でない。無論自から主演者は存在するが、その主演者が在來の如く一定の型にはまつた役柄を勤めないのである。たゞ現在のところでは、文武老生劇の主演者は、武生として育つて來た俳優が多い。從つて演ずる劇も武劇を中心としたものが多いだけである。

文武老生劇の元祖たる上海派で名を賣つた俳優には、小達子、麒麟童、林樹森、高百歳、楊瑞亭、趙如泉等がある。目下北京でこの種の劇を演つてゐるのはすべて少壯俳優であつて、李萬春（小達子の女婿）を筆頭に、李少春（小達子の息）、葉盛章、（富連成社座長）の三傑が互に雌雄を爭つてゐる。興味のあるのはこの三人がいづれも近來西遊記の孫悟空物で盛に當てゝゐることだ。尤も葉盛章は俳優養成所たる富連成社を預つてゐる責任上、そればかりも演つてゐられないと見えて、餘り頻繁には演らない。北京の老生俳優の新進で近來文武老生劇に近い脚本を盛に上演してゐる者に、李盛藻、奚嘯伯の兩雄がある。

（未完）

## 北京婦人 夏の服装





1

北京の女性の美しさは夙に定評のあるところであるが、北京の銀座通りとでもいふべき、外國商店、骨董店の立ち並んでゐる王府井(ワンフーチン)の道路一杯にひろがつた槐の並木の下を歩く各國人の中思はず目をみはらせる美人はたしかに北京人である。

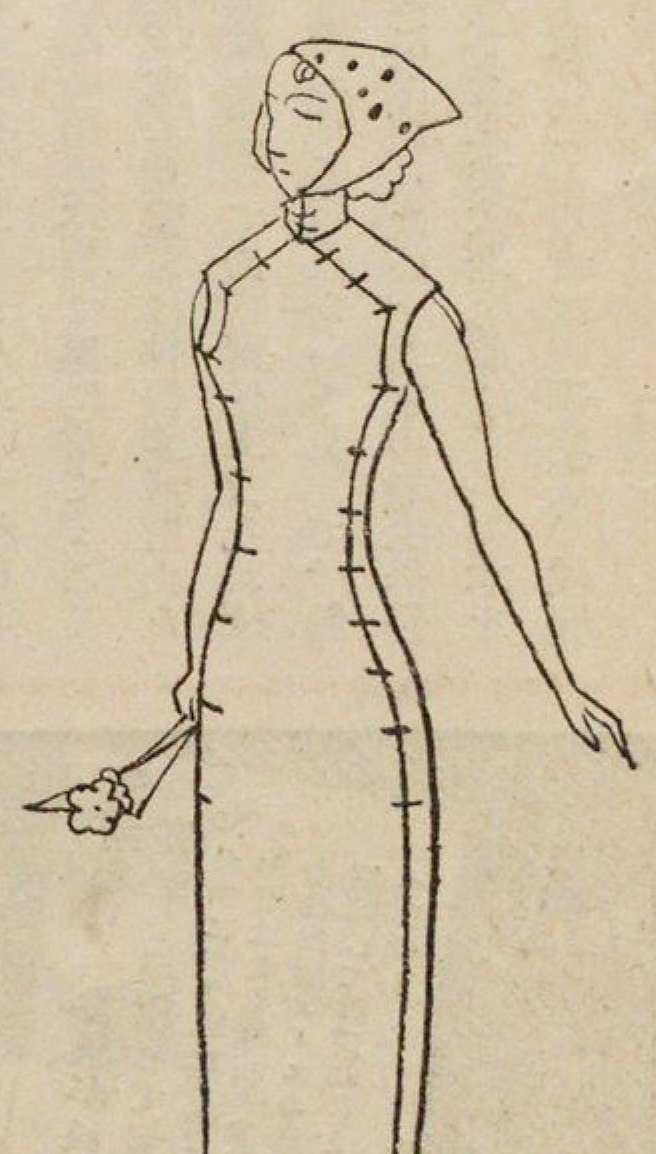
白色人種の皮膚の白さが間が抜けて見えて東洋人の皮膚のうすい黄色が世界に比類のない美しいものであると云ふ事がよく了解される。

これは狭い見聞で獨斷であるかも知れないが最もモダンな北京婦人でも洋服をきてゐない。あたりまへだといはれるかも知れないが、日本の銀座通りと比較して下さい。

支那服が洋服に近いせゐでもあらうが、支那の服装を支那人自身が一番美しく便利な服装である事をよく知つてゐるからであらう。支那人同士が英語で會話し、Y・W・C・Aが若い女性たちの憧れであり、外國映畫館に日参する彼女らにとつて、これは一寸面白い現象である。

もつとも外國人にとつては少しも變化のない様に見える服装も常に激しい流行の流れがある事は日本と同じである。

一時支那のモダンな女性の代表的な髪の型は襟首でカツトして髪の先きを後ろに一寸そらした形であつた。現に日本の代表的な流行婦人雑誌の表紙に支那婦人の顔が出てゐてこの髪型であつたが、これは現在の形とは云はれない。最近はヴオグやハーパス・バザー等に見られる外國人の髪型がそつくりそのまま模倣される。これは世界中同じであると見えてコロネーションの流行る時はコロネーション、アツプスタイルの時はアツプスタイルと云つた具合である。



2

ある北京人の説にパアマネントをしてゐるのは南方人であるといふ人がゐるが、これは南京が政治文化の中心であつたから新しい流行がそこから發生してきて地方に行き渡つていつたものでパアマネントをしてゐるのが總て南方人であるといふのは獨斷であらう。

最近かなり値段があがつたがまだまだ外國品が豊富でウビガンやコテイがごく普通に使はれてゐる。最近「雙美人」のマークのクラブ、資生堂、レートの化粧品が活潑に進出してきた。化粧はごくナチユラルである。



服の布地で一番普通に使はれてゐるのは空色の木綿であるが最近洋服地が非常に自由に使はれてきた。

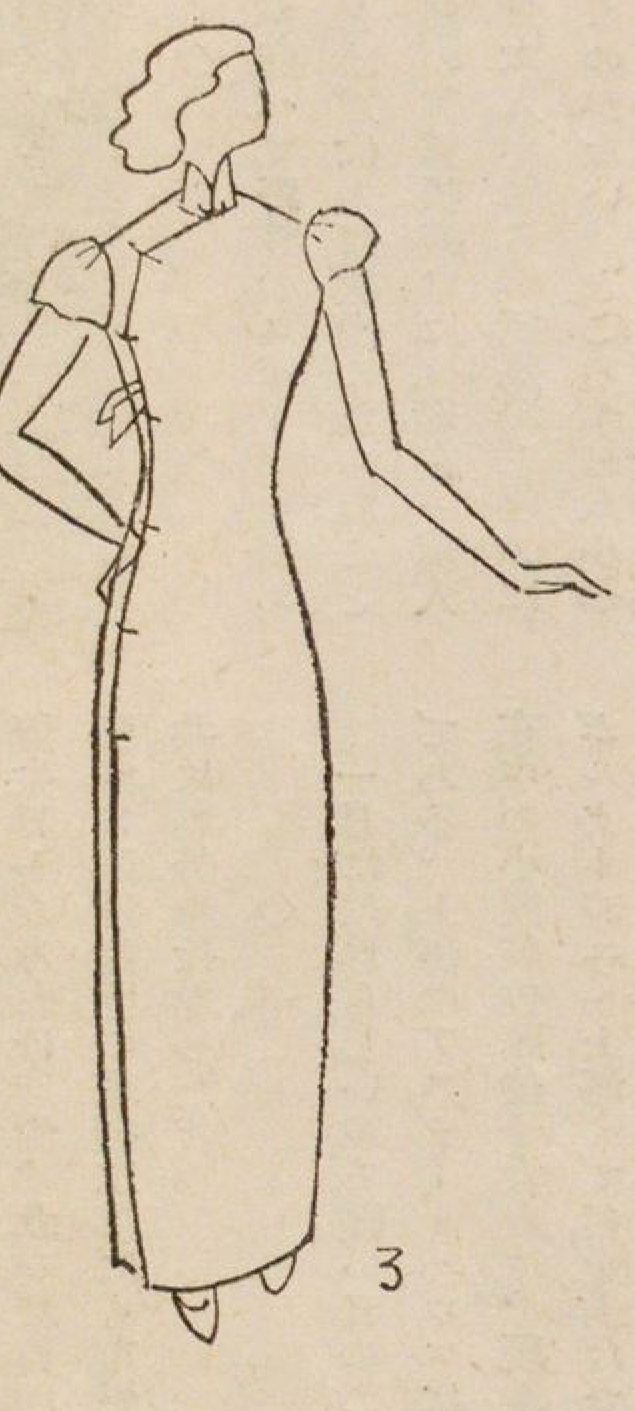
夏の布地としてはレース、ボイル、紗、ジョーゼツト、麻が代表的なもので紗のすき透る美しさは日本の絽のお召と同じである。

夜會服として支那の古い布地を最も

新らしい型で仕立てる事が流行してゐる。仕立は非常にうるさく三度も四度も假縫して身體の線通りピッタリと合はせる。腰を極端にしめて、胸のふくらみを出してゐる。住居形式がヨーロッパに近いせゐか身體の線もヨーロッパ人に近い人が多く、背が高く尻の位置が日本人より高いのでみつともなくない。



王府井(ワンフーチン)で拾つた寫生によつて説明すれば(1)が極くノーマルな代表的な支那服の型(2)は襟は普通の高いカラーで右の合せ目と同じ縫ひ目を左に縫ひつけたもの(3)は袖がボレロになつてゐて襟のボタンが一つ。合せ目にハンカチを入れる事が流行してゐる。(4)は女學生によく見られる風俗で薄い手織のジヤケツを羽織つてゐる。袖を斜め上に切るのは或る種の職業婦人に限られ普通は直角に切つてゐたが最近はこの風が一般に浸潤してきた。



3



4

裾の切目の長さはいつも變化してゐるが今は足首から七寸位。

春先から街路の反射光線が日本よりよほど強烈なので日除けの色眼鏡は必需品である。頭に布をかぶるのは、外國人支那人共通しての流行である。

夏の珍らしい帽子として洋車(人力車)ひきのかぶつてゐる高粱の莖でつくつた饅頭笠にバーミリオンや淡青色の支那模様をつけた帽子があるが、非常に素朴でうつくしい。九十錢位で買へる。

靴はハイヒール、又はサンダル。バーチヤの北京支店はいつも美しい女で一杯である。靴の假縫のうるささは洋服の場合と同じ。

靴下は普通の絹のストツキング。

以上大體の瞥見程度で新らしい女性の服裝を拾つて見た。

# 傳書鳩

◇

陽春を迎へて野外のスポーツを樂めないことは近代人に我慢のならぬことだ。蒙疆の首都張家口には現在一萬人からの日本人が居るが運動場と呼ぶに堪へるものがない。ところが日本小學校の新校庭は實に一萬七千平方米で廣さといひ場所といひ絶好の地であつて學童三百七十名の體操用だけでは勿體ない。民會でもこれに適當な運動施設を施して市民の體位向上に資したい用意を持つてゐたが、蒙疆特有の乾燥した砂地で少しの風にも砂塵がまき上つて競技用グランドとするに難がある。ところが、萬全のグランドとするには莫大な費を食ふので民會でも頭痛の種となつてゐた。これを聞いた華北交通會社張家口鐵路局では、多數の若い從業員の體育向上をかねがね考慮中でもあつて、これを機會に市民の運動場を進んで作ることに一決し、厚生科が中心となつて一萬圓の豫算で一大綜合運動場の建設が急がれてゐる。スタンド附の大野球場、二百米直線コースのトラック、その他各種の競技場に角力場も作らうといふ豪華ぶりで、完成豫定の秋のシーズンこそスポーツ張家口の誕生日となるわけ。尙、北交社員は、張家口神社建立の基礎工事にも市民と共に勤勞奉仕をした。

◇

一月には珍らしい或る暖い日のことである。上海はアスター・ハウスに滯在中の小說家佐藤俊子女史は、現地ルポルタージュ「上海」で名を上げた東寶三木茂氏とつれだつて、上海報道部曹長の石濱知行氏を誘つてジエシイ・フイールド・パークの動物園を散步した。ポカ／＼した日射を受けて何とはなく幼い頃の想ひ出にひたり乍ら默つて足を運んでゐた。突然「アラ、鹿がゐるわ」と佐藤さんが叫んだものである。近付いて見ると、何とそれは羊であつたので、三人は大笑ひした。この間違ひが、その日の散步を一層樂しくして、ちよつとした出來事にも笑ひを見出して樂しんだ。それから二三日してのこと。歸國の日も明日に迫つた三木君は、近く北京に旅立つ筈の佐藤女史に「左樣なら」をのべに來て、白い角封の手紙を添へた贈物をおいて歸つた。贈物は外國の動物繪本で、手紙には、「私の好きな佐藤さんが北京に行つて、駱駝と馬と間違へたりしないやうに、この繪本を汽車の中でよく見ていつて下さい」とあつた。北京に來た佐藤さんは、背中の瘤の間に體に不似合な小さな石炭袋を運ぶドボンとした表情の駱駝の行列を見るたびに、樂しい微笑がこみ上げて來たさうだ。

◇

「四月攻勢」を名に敗殘共産黨軍は鐵路や通信機關の破壞やら、愛護村民の金品掠奪など、彼等一流の暴虐ぶりで良民人心の攪亂を事として來たが、これに對して各地區では皇軍警備隊を中心に宣撫班の活躍や民衆の協力によつて被害件數が著しく減少し、各地とも安んじて業にいそしむ風が漲つて來た。過ぐる三月末のこと、盧生の夢で有名な京漢線邯鄲驛の附近で、共匪の一人が線路の犬釘を拔き取らうとしてゐた所を、通りあはせた趙青年が發見組んづほぐれつ大格鬪のすゑ犯人を縄にかけて邯鄲警務分所に連行した。分所からは直に工務段に連絡、直に出動修理されて間もなく通過の貨物列車は無事運行した。邯鄲段愛路係員の調査によつて、この勇敢な趙青年は邯鄲警備隊の青訓指導員養成訓練を受けた成績優良の第一回卒業生なることが判つた。同君の列車事故未然防止と犯人逮捕の行爲は村民の賞讃の的となり華北交通會社北京鐵路局から表彰された。

◇

古來洪水を天災の第一と恐れる開封の附近で、支那軍は昨年夏黃河堤防の決潰を敢てした。一面の洪水となつて農民は悲境のどん底にたゝきこまれたが、皇軍の暖い手がのびて治水の大事業が起され、開封を中心に建設列車やトラックが黃塵をまいて麥秋の廣野を馳けまはつてゐる。その上綏靖委員會の設立を見て、今や開封は名實ともに文化と政治の一中心となり、雄々しい建設工作への前線基地となつてをり、日本人は既に千四五百の數にのぼつてゐる。この開封の街に桃景教胡回といふのがある。昔景教（キリスト教）が支那に這入つて來たとき、猶太人がこれに反對して猶太教（桃景教）を奉じ宋時代に、八姓三十二家族が開封に入り、現在の胡同に住んだ。元の時代に一時優遇されたこともあるが、その後凋落して、現在の開封では桃景教胡同が貧民窟の代名詞になつてゐる。金力で世界を支配してゐる猶太人も支那でだけは最下層におちこみ、支那宿の帳づけなどをしてゐるのが上の部といふみぢめさださうだ。

◇

先頃華北交通會社愛路課で沿線の農民大衆に對し鐵路愛護の精神を鼓吹す

るため上演の愛路映畫と受路劇の臺本を四月十日締切、五月一日發表で懸賞募集した。東亞新秩序精神の徹底が原稿應募の上にも現はれて、豫想外の應募者を得たが、そのうちに多數の華人應募者があつて關係者をいたく喜ばせた。嚴選の結果、映畫では日人の「張茂林の家」が一等、劇では華人の「愛路」が一等と決定した。

◇

繁榮北京を物語つて立看板や廣告燈が、街頭に氾濫してゐる。商賣がはやらなければ廣告だつて多い筈がない譯で、まのあたり興亞氣分滿喫の街頭風景にさら〳〵文句をつけるといふのではないが、古都の風致をそこなふものや、交通を阻害する街頭廣告も少くない。そこで市政府では、三月末から立看板や廣告燈類の整理にとりかゝつたが、それで撤去されたものが今日（五月十三日）まで恰度百件、その中五十件の殆ど六割まで日本人關係であつたとは、日本文化の名折れではないか。

支那の廣告で思ひ出すのは、二十五年間支那で廣告代理業をやつたといふカール・クロウの言葉である。廣告しても結果が出發點と同じことで、結局廣告を中止といふことになつたことが度度あつた。たゞその大廣告運動の結果として吾々の滿足すべきことは、誰もが「非常に立派な廣告だ」と褒めてくれたことだ。自分の好きなもの、嫌ひなものに對して、支那人は非常にはつきりした區別をつけてゐるばかりでなく、一度或る一つのものに親しむと、それが煙でも石鹼でも、齒磨でも、何によらず世界中で一番忠實な消費者であつて、その商標を何等の疑をはさまず、信仰するが如く支持する。製造者は嬉しさに涙を催す程のものだ。何處の國にも特に賣れ、しつかりした地盤を持つ商品といふものはあるものだが、どんな商品も支那における程はつきりした地盤を持つことは出來ない。支那人は石鹼なら石鹼を買ふとき、自分が前から使つてゐる石鹼は決して自分を騙したことがない、何年も何年もおやぢの時代から、いやそれ以前に祖父の時代からその石鹼を使つて來たがいつも變らない品質だと考へる。廣告を見て安いからといふので新しい一つの石鹼を買ふことがあつてその品質の惡くないことが判つても次に買ふときは昔からの石鹼を買ふ。彼には新しい石鹼が前と同樣によい品質かどうか信じ切れないのである。さうした苦い經驗も、度々嘗めさせられて來たのだ。

——カール・クロウは、支那人といふ信徒の如き誠實な消費者を掴むのは廣告でなくて商標に歴史の箔をつけることだといふ。支那には文盲も多いが、彼等はレツテルの字の數を覺えてゐて、Aの字が一つ殖えたり減つたりしても買はうとしない。支那に進出しようと志す人々よ！　自己の事業の背景に歴史を築く爲に、じつくり長く大陸の土に足をふんばる心構へがなにものにもまして大切であることを知らねばならぬ。

◇

鐵道現業員は銃を持たざる第一線の戰士だ。國防に産業に文化に鐵路の占むる重き使命達成のため常備の訓練に努めてゐる華北交通會社では、時局下にふさはしい勇壯なブラス・バンドとラツパ鼓隊を組織することとなつた。バンドは北京、天津、張家口の三ケ所ラツパ鼓隊は濟南。いづれも該地の路局社員中から適當な者約三十人選んで編成、それぞれの指導者には戸山學校軍樂隊出身者を內地から招聘した。上達の曉には沿線軍鐵の慰問をはじめ會社行事に參加する。將來は華人從事員の希望者も加へ、音樂を通じて日華の融和をはかる心組み。城壁の街を颯爽と行進するブラスバンドを見るのも近い日のことであらう。

◇

支那の交運は、南船北馬といはれるが、北支からも水運をオミツト出來ない。天津と保定を結ぶ大清河は、北京を頂點とする鐵道に對し三角形の底邊をなす北支交通の大動脈だ。ところがこの大動脈も事變このかた共匪土匪の跳梁で閉塞されてゐたが、軍の肅清工作で水路流域の匪影は全く拂拭されて過ぐる四月二日天津から先驅の輸送船隊四十九艘が舳艫相銜んで無事保定に安着、蔣政權が「四月攻擊」のお題目をよそに、先般五月一日から正常開通の運びとなつた。事變前には、この大清河によつて保定から天津に輸送の山西、井陘の石炭は每年二十餘萬噸にのぼり、棉花その他の多くの下航貨物があつて、天津からは鹽、石油、マツチ綿布、麵粉等の一般生活必需品が上航し、それらは保定から河南、山西方面にまで供給されてゐた。興中公司では同水路によつて本年中約三十萬噸の石炭を輸送する計畫だが、輸送量の增加賃銀安と相俟つて水路復興の恩惠は多大であらう。

◇

## 傳書鳩

# 北京ごよみ



## 七月

一日（舊五月十五日）
▽關帝廟開廟中。永定門外にあり、道教の寺で關羽を祀つてゐる。期日は舊五月十一日から五日間で今日は最終日である。献納芝居や競馬など行はれるので、城内の人士もお詣りと云ふより遊びに行く。暑い盛りの城外に出るのも一興であらう。

十七日（舊六月一日）
▽中頂（碧霞元君廟）開廟。右安門外十支里草橋にあり、祭神は娘々である。娘々は女の神樣で、子授け治病を祈願することは前號に述べた通り。大體道教は多神教で無暗に現金な神樣を祀上げてゐて、老子本來の思想とは緣遠いものである。この日豫ねて廟市が立つので百姓、婦女子打連れて詣る。ここの草花は見事なもので城内の子女も出向く。昔は會と云つて（日本の御神輿かつぎのやうなもの）盛大なお祭騒ぎをやつたとあるが今は廢れてゐる。
▽白雲觀曝書。西便門外にあり、この日から七日間、境内の三清閣上密封してある道藏の書籍を蟲干しする。この寺は日本の道教研究者間にも有名である。

二十二日（舊六月六日）
▽善果寺開廟。廣安門内にあり、この日晾經會（經典の蟲干）と云ふが實際は行つてゐない。善男善女、遊び人が集る程度である。開廟一日。

＊　＊

〔雜事〕以上は新暦七月中の行事の大體で、舊暦五月前半の習俗等については前號の本欄を參照ありたし。

この月は柘榴の花を觀賞し、金魚を愛玩する。天橋の東方にある金魚池に遊ぶ者が多い。（金魚池に就ては本號寫眞頁參照）

又種々の瓜や果物が出盛る頃で街頭を賑し、清涼飲食物も賣出される。季節の花には溫州の百日紅、紅白の夾竹桃、廣東の茉莉花、白玉蘭、安南の月桂、棕櫚、鳳尾蕉、福建の蘭、湖南江西の山茶花、瑞香花など移入される。

○什刹海の遊樂場は六、七月にかけて人出が多く、天幕張りの露店や見世物が並んで賑ふ。（前號參照）

○二閘（東便門外約三支里）は昔皇室の御糧を運ぶ要路であつた。東便門から通州迄水程四十餘支里。水深が足らず航行出來ないので五箇所に閘を設けて水を蓄めたのである。夏分になると東便門からこのあたりにかけて納涼遊樂の人出が多い。昔は歌妓や女郎など引連れて派手な遊びをする者が多かつたらしい。

○舊六月六日（新七月二十日）は俗に垢の日と云つて、婦女子は髮を洗ひ騾馬や犬猫まで水浴さす。民家一般に衣類の蟲干をする。

この日昔清朝內府では鑾輿や儀仗、歴朝の御製詩文書集經史など蟲干された。又昔洗象と云つて鑾儀衞の役人が旗鼓を以て象を導き宣武門西の河に出て水浴させた（宣武門内に馴象所があつた）この日は兩岸觀衆で埋まる程の盛大さであつたさうだ。象の雌雄が交尾するのは壯觀であつたと書いてある。

○舊六月は蓮の花見月で、北海、什刹海、城西北隅の積水潭など見事なものである。

尙北京の名花夜來香、茉莉花など街頭に賣出される。共に香氣の高い花で婦女子達が髮に挿したり、胸に飾つたりする。

蓮の實や、清涼飲物の酸梅湯（青梅を砂糖煮にしてバラの香をつけた氷水）など盛に賣出すのもこの頃である。中央公園の納涼で茶店が繁昌するのも夏分のことで、廣々とした樹蔭に竝べた無數の籐椅子も空席がない程の賑ひを呈する。

北京の定期廟市は夏分も休まず、かへつて賑ふ。

前號訂正　21頁「けだもの登場」の羊を羊肉屋の看板とあるは喜羊と言つて結婚式の祝に使はれるもの。28頁邦人日常斷片寫眞說明中「水が一桶二十錢」とあるは「一桶二錢」の誤り。


昭和十四年六月十五日印刷納本
昭和十四年七月一日發行

七月號
（毎月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　君島潔
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番
電話九段（33）一四一五番　三三四四番

一册定價　三十錢（送料六錢）
一ケ年分　金三圓六十錢

廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所　一新社
電話土佐堀九三九

方面軍檢閲濟

# 戰時體制版

## 第一書房

東京麹町區三番町一
振替東京六四二二三・電話九段一四一五／三三四四

出版の大衆化とは徒らに大衆に阿ねる事ではなくして、實に名著をもつて大衆を引上げてゆく事でなくてはならないと信じます。私は此の戰時體制版を引提げて敢然と之れに對處しようと決心したのであります。從つて本體制版はその點・特に留意して、今日及び今日以後の日本人が日本人として起つ上に是非とも必要な萬人必讀の書を、精神の糧として供給することをもつて使命とするものであります。

斯くして自然・本戰時體制版は、思想・藝術・宗教等の文化の各方面に渉つて、古今東西を通じて現代日本に最も緊要にして重大意義ある名著のみの普及を計るものであります。

第一書房　長谷川巳之吉

**倫理御進講草案**　杉浦重剛謹撰　近衛公爵推薦
日本精神の眞髓を説いた不朽の貴重書。躍進日本の新らしい指標。

**神國日本**　小泉八雲著　戸川秋骨譯
米國海軍當局が世界屈指の日本研究必讀書として將校以上必讀させた

**わが七十年を語る**　林權助述　岩井尊人筆錄
日露戰後三十年、國際的事件百十二、興味深き日本外交の側面史。

**幕末愛國歌**　川田順著
幕末に於ける愛國歌の著者獨自の研究と解説。刻下萬人の必讀書。

**人生論　宗教論　人間論**　土田杏村著
人生を語り、宗教を論じ、人間の意義を正しく把握せしむる快著。

**戀愛論　結婚論　道徳論**　土田杏村著
戀愛を批判し、結婚について解答を與へ、新しい道徳の規準を確立

**山と溪谷**　田部重治著
山と溪と森林と高原を尋ねて三十年、山旅の父の貴重なる記錄。

**佛教聖典　般若心經講義**　高神覺昇著
現代人の煩悶と焦慮は本書によつて完全に一掃される聖典名講義。

**禪學讀本**　山田靈林著
深遠なる禪の妙味を洗練された現代感覺をもつて表現した無二の書

**大菩薩峠**　第一册　第二册　第三册　中里介山著
世界に誇る眞の日本的大文學。正に國民的偉大を表徴する大金字塔

**大陸の花嫁**　林房雄著
今日の若き人々に喜びを以て勸める美しき物語。待望の大陸文學

**青年**　林房雄著
雄大なる構想に立てられた黎明期日本の一大巨像。力作長篇小説。

**壯年**　林房雄著
明治維新の日本を描いた長篇傑作小説。『青年』の姉妹篇を成す。

**石川啄木**　鐽田研一著
石川啄木の歌を理解し其生涯を知る唯一の書きおろし事實小説。

**大地**　第一部　第二部　第三部　全譯出揃　パアル・バック　新居格譯
『大地』を讀めば、支那の庶相が解ると戰線でも銃後でも大好評。

**農民**　第一部秋の巻　第二部冬の巻近刊　レイモント　新居格譯
ノオベル賞を得た波蘭の偉大なる農民作家の傑作。新譯遂に成る。

各册　價七十八錢　全國有名書店に於て發賣中

# Munaval
## -NISSEN-

寄生性・瘙痒性 皮膚病治療劑

# ムナバール「日染」




**ムナバール**は化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮內に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

**【特徵】**

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黃を含有す。

**【適應症】**

疥癬・頑癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰囊頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性皮膚諸疾患。

**【包裝】**

一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

NISSEN

製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元 株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

昭和十四年六月十五日印刷納本 昭和十四年七月一日發行（毎月一回一日發行）第二號
定價三十錢